

高山村

輝け未来

受け継ぐ伝統

百年へのパスポート

村章

高山村の頭文字「タ」を円形の中に図案化。「タ」を平和な「ハト」に形づくり、円満な円に囲まれた高山村は扇状地として三方を囲まれ、村も村民も躍進していく象徴です。
(昭和53年1月制定)



村の花 シャクナゲ

高山村の山野に自生し、自然と風土に適している。樹齢も長く、村内で古くから愛された可憐で美しい花。葉の緑は未来を象徴している。



村の木 いちい

高山村の山野に自生し、自然と風土に適し、村内でも愛されている。樹勢が強く、樹姿が美しいので品位が高尚です。



高山村 村制施行五十周年記念誌

発行：高山村役場総務課
〒382-8510長野県上高井郡高山村大字高井4972
TEL.026-245-1100
ホームページ <http://www.vill.takayama.nagano.jp/>
Eメール takayama@vill.takayama.nagano.jp
発行日：2007年12月
印刷：カシヨ株式会社

「輝け未来 受け継ぐ伝統」

～村制施行五十周年に寄せて～



本村は、昭和三十一年九月三十日、松川を挟んだ高井・山田両村が合併し、住民の大きな期待のもとに、新村高山村として発足しました。以来、今日の高山村の発展を見てまいりましたことは、先人の皆様を始め村民の皆様のご尽力の賜物であり、関係各位に心から敬意と感謝を申し上げます。

これまでの五十年を顧みますと、厳しい財政状況下でありながら、道路、橋、上下水道、学校など重要な施設が着実に整備されるとともに、一茶館や村誌編纂など文化の薫り高い村づくりが着々と進められ、改めて本村の持つ歴史の重みと先人のご努力に筆舌に尽くし難い感慨を覚えます。

私たちは、村制施行五十周年を契機に、恵まれた豊かな自然と先人の英知により受け継がれてきた歴史と伝統のある高山村を誇りに思い、次の百周年に向けてしっかり引きついでいかなければなりません。

本村では、将来を担う子供たちの健やかな成長を願い、平成二十年の開所に向け統合保育所の建設をはじめ、恵まれた自然条件を活かした世界に通じるワインぶどうの産地化、食の安全安心な農作物の栽培、ホテルの里づくりなど、豊富な温泉観光地との連携による活力ある産業振興を図るとともに、豊かな自然と農山村の原風景を保全し、後世に引き継いでいくための景観条例の制定に向け、村民の皆様とともにかけがえのない自然を大切に村づくりを進めております。

本誌は、村制施行五十周年を記念し、これまで歩んできた道程に思いを馳せ、現在を見つめ、そして輝かしい未来に向け村民の皆様と力強く歩んでいくためのメッセージです。

夢と希望と誇りのもてる活力ある村づくりに、なお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

高山村長 久保田 勝士

たかやま、 未来進行形。

この大地に、これからは
どんな夢が広がっていくのだろう。

美しい北信濃の山並みに、松川の流れが
険しい谷を穿ち、やがて沃野となつて広がる大地へ。
そんな自然の懐に新しい村が産声を上げました。
あれから50年。高山村は、ここに暮らして息づく
人々と50の星霜を刻んできました。
描かれたのは、たくさんの夢、育んだのは、
豊かな実り。そして創りあげた数多くの成果。
でも、まだ50年、やっと50年。
私たちはまたようやく道半ばに達したに過ぎません。
次の半世紀を、私たちはどのように描き、
育み、創りあげていくのでしょうか。
たかやま、未来進行形。
ふるさとのロマンは百年の未来へ受け継がれていきます。

C	O	N	T	E	N	T	S			
信州高山感動めぐりマップ	村民憲章／村歌	高山村 統計資料編	村内の主な公共施設	そして未来へ	歴史の香りが息づく里	みんながいっきいき、元気な里	環境にやさしい農の里	おもてなしの心・湯つづきの里	高山村五十年の軌跡	たかやま叙景四章
49	48	33	32	26	24	22	20	18	10	2

第一景 絢爛

「けんらん」 華に心賑わすふるさと

その古桜はいつも 私たちを見つめていました。

四月、高山村にうつわしい里山の春景色が巡ってきます。さまざまな草花の彩りと樹々の芽吹きに満たされる季節。ここに全国から愛好家を集めているのが、村内の各所に競って咲くしだれ桜の美しさです。

里の緑を背景に優美な華の滝を舞い降らせる景観は特筆のもの。映画「北の零年」の冒頭シーンも飾った水中のしだれ桜をはじめ、村内約二十本の名木があでやかに競います。古いものは樹齢六百年にも及び、高山の人々と暮らしを見守り続けてきた桜たち。写真でご紹介している水中、坪井、黒部、赤和観音、中塩の桜は「高山五大桜」とも呼ばれています。里のしだれ桜の見頃は四月下旬。さらに山田温泉の延命桜、松川渓谷のオオヤマザクラと時期を追って桜の宴は五月上旬まで続きます。



たかひ 高井のや 只一本の花の雲

小林一茶

坪井のしだれ桜

三郷区の坪井地籍にあり、日本彼岸桜見立番付で「西の小結」に選定された名木です。しだれ桜としては樹齢・太さともに村内第一。樹齢は600年以上と思われ、老樹の気品漂う桜です。村指定天然記念物。

水中のしだれ桜

水中地区の鹿島神社境内に優美な姿をみせています。寛保年間、鹿島神社を祀った際に植えられたとされており、樹齢約260年を超えています。幹周約4m、樹高約22m。村指定天然記念物。



赤和観音のしだれ桜

赤和地区の奥、観音堂の登り口にたえずむしだれ桜。400年の歴史を持つ赤和観音堂を借景に、枝をいっぱい広げて咲き誇る姿が印象的です。樹高15m、樹齢約200年。



八滝のオオヤマザクラ

里の桜が花吹雪となって舞い散る頃、ようやく松川渓谷にオオヤマザクラの花ごよみがはじまります。見頃は5月上旬。渓谷のそこかしこを鮮やかに、濃色のオオヤマザクラが彩ります。



黒部のエドヒガン桜

黒部地区の南、高台に雄大な姿をみせています。花の朱みが濃いエドヒガンならではの彩りが目を奪います。樹齢約500年、幹周約7m、樹高約13m、樹下に「十二宮」が祀られています。村指定天然記念物。



中塩のしだれ桜

なかひら地区にある阿弥陀堂の傍、お地藏さまを護るようそびえます。樹高約10m、樹齢は約150年。幾重にも張り出した枝々が花で埋め尽くされると、さながら湧き立つ華の雲のよう。

「しだれ桜の里を満喫する 信州高山桜まつり」。

毎年 四月の下旬には「信州高山桜まつり」が開催されています。恒例となっている「桜めぐりトレッキング」では、毎年テーマに即してそれぞれの桜を愛でてめぐるコースが設けられ、多くの方が参加しています。さらに、しだれ桜のライトアップや、高山村自慢の農産物の直売所なども設けられ、しだれ桜の里は、全国からおいでの人々で賑わいの時を迎えます。

第二景 爽風

「さわやか」 緑の中に憩うふるさと



かぎりなき
みそらのはてを ゆくくもの
いかにかなしきこころなるらむ

会津八一



雷滝

松川渓谷滝めぐり

山田温泉から山田牧場へと向かう道沿いは、松川渓谷。その途上には、幾つもの勇壮な滝を見ることができます。
「雷滝」は、滝裏から流れを見ることができるところから通称「裏見の滝」とも呼ばれます。さらに落差180mに8つの滝壺を持つ「八滝」、岩壁に三段の滝筋を彩る「七味大滝」など、変化に富んだ滝のドラマを楽しむことができます。



七味大滝



八滝



山田牧場
明治33年創立という由緒ある公共牧場。159haの放牧地に100頭以上の牛や馬が放牧されています。

爽やかな空気に包まれる山田牧場の夏。
ここは、日本有数のスケールを持つ上信越高原国立公園のなか、笠岳の南裾に広がる美しい自然が、牧場のロケーションとなって、まるでスイスの高原地帯のような景観を見せています。
広大な放牧地には、のんびりと草を食む黒毛和牛や馬などの姿、空には時折悠然と舞うイヌワシも姿を見せます。
上信越の雄大なパノラマを堪能し、高原の植物に出会い、夕べには、信州のサンセットポイントに選ばれた「山田牧場からの北アルプスの夕景」を満喫。
そんな高原の夏は、キャンピングやハイキング、笠岳トレッキングなどを楽しむ人々で賑わいます。

高原に響く声、風のささやき
鮮やかな夏がやってきます。



カリヨンホール
爽やかな高原の野外ステージ。隣接して山田牧場キャンプ場が開設されます。

夏の祭典、
信州高山まつり

夏八月、高山の里は、「信州高山まつり」で盛り上がります。信州高山太鼓に沸き、郷土料理「ひんのべ」をモチーフにした、ひんのべ音頭で盛り上がり、宵火大会でクラ イマックスへ、ひんのべの無料サービスも大人気です。



第三景

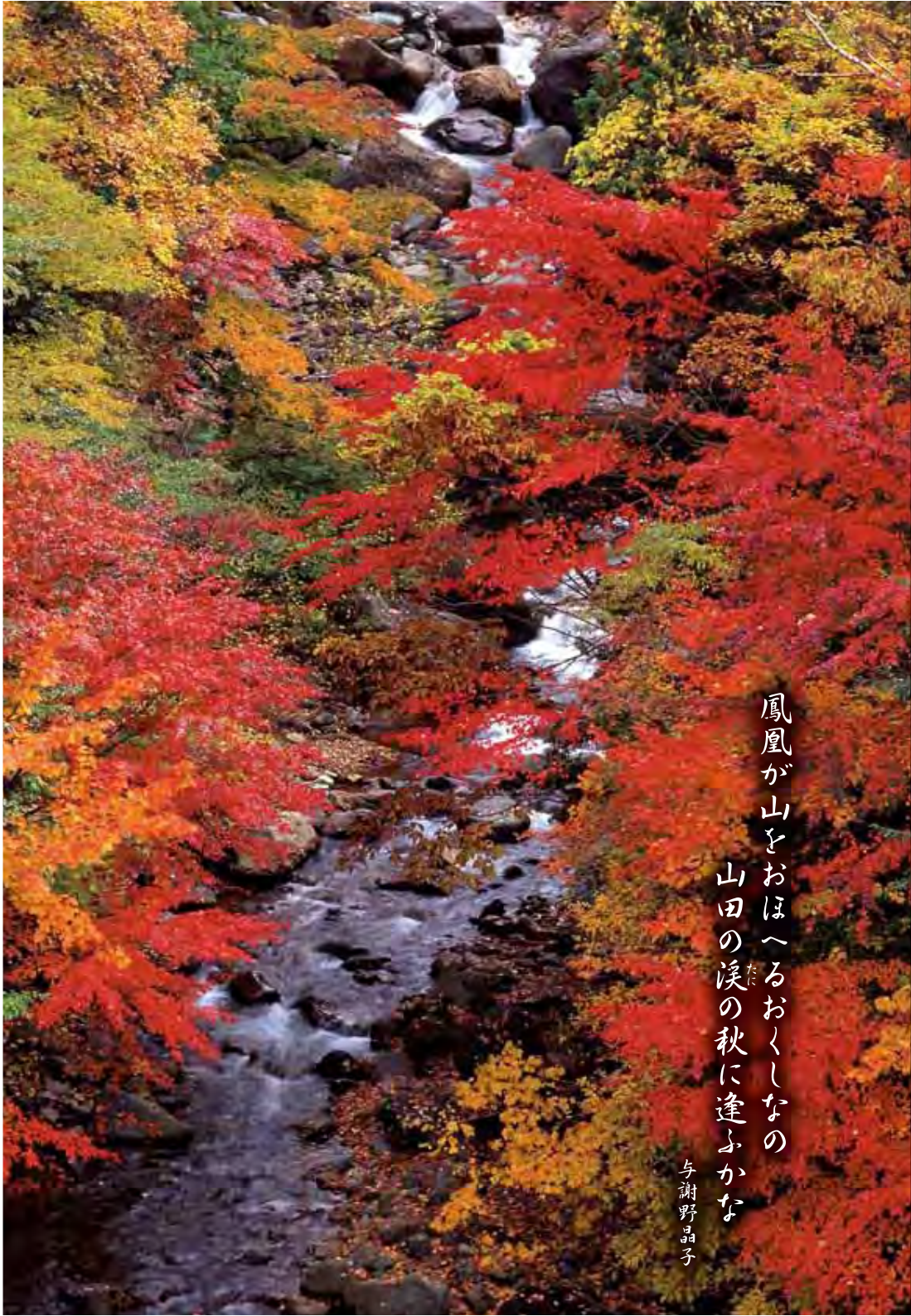
錦織

「きんじょく」

艶やかに彩るふるさと

鳳凰が山とおほへるおくしなの
山田の溪の秋に逢ふかな

与謝野晶子



笠岳の頂から里山へ 色彩の帯が駆け下ります。

錦織り成す日本の秋。十月を迎えた高山村は、笠岳の頂から山裾へと、黄紅葉の帯が下ってきます。とりわけ全山が染め上げられる松川渓谷の秋は圧巻。カエデ、ブナ、ナナカマドといった広葉樹がいつせいに色付くと、V字の渓谷を黄金の輝きで埋め尽くし、その中に燃え立つ紅葉が一際鮮やかです。そして里では、特産のりんごやぶどうが美りの時を迎えています。

松川渓谷の紅葉前線

松川渓谷の紅葉前線は、10月初旬に笠岳から始まり、標高900mの山田温泉まで、約1ヶ月をかけて降り下ります。見頃が長く、その時々々のベストポイントに巡り合うことができます。



高井橋



舞の道遊歩道

松川渓谷の黄紅葉を愛でるなら、舞の道遊歩道がおおすすめです。山田温泉の高井橋のたもとがスタート地点。対岸に渡って、薬師堂まで一三kmをゆったりと楽しむ散策の道です。

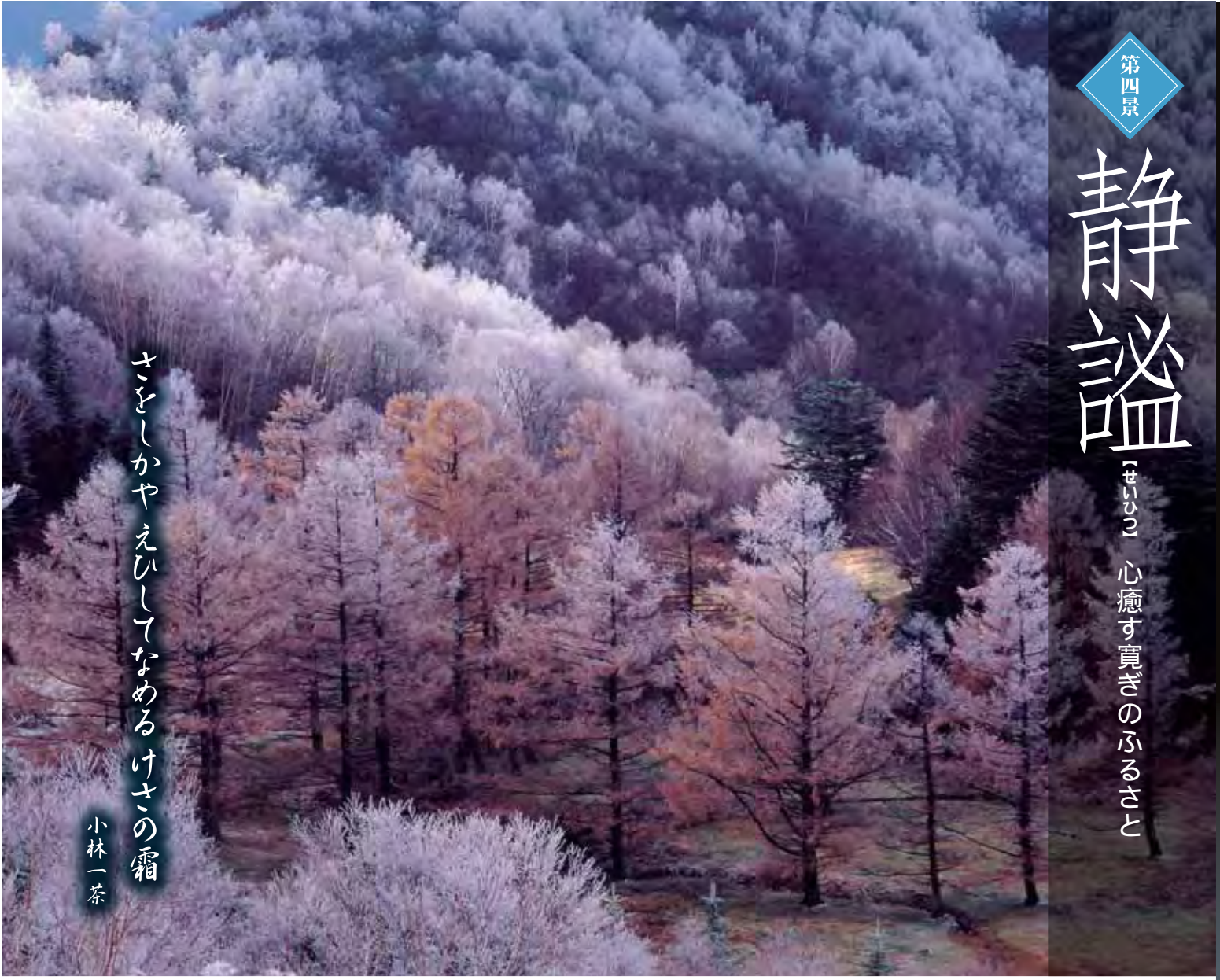
最初に潜るのは数寄屋造りの露地門。内露地に入ります。中門や外待合を経て松楓庵へと。いわば茶庭を楽しむ雰囲気。渓谷の自然を味わえるコース。小粋な演出が、四季折々の魅力を伝えてくれます。



第四景

静謐

「せいびつ」心癒す寛ぎのふるさと



なごしかやえひしてなめるけこの霜

小林一茶



白銀のペールが舞い降りる感動のウインタースポーツリゾート。

上信越の山々に白銀のペールが舞い降りると、空気も凛としてくる冬の訪れです。

そんな冬の高山はウインタースポーツ&レジャーのパラダイス。国立公園内ならではの壮大な自然景観に抱かれて、スキーやスノーボード、動物たちの雪上観察などを楽しむために、各地から観光客が訪れます。

夏の放牧地から白銀の大スロープへと姿を変えた山田牧場スキー場では、笠岳の南西斜面に広がる明るく開放的なゲレンデを舞台に、爽快感にあふれた滑走を楽しめます。



スキーロイヤ

そして温泉街の近くに広がる山田温泉スキー場は、チビツ子からおいしいちゃんおばあちゃんまで楽しめるファミリー天国。ゆったりとしたゲレンデには、昔懐かしいベンチ式リフト、スキートロイカもあります。



冬のイベント情報
 山田牧場スキー場オープン12月中旬
 山田温泉スキー場オープン12月下旬
 かんじきトレッキング1月~3月
 信州高山温泉郷スキー大会3月上旬



かんじきトレッキング
 雪上を歩くための知恵、かんじき。大パノラマの見える眺望の美しい場所へご案内します。



信州高山温泉郷スキー大会
 未来のアスリートを目指す小学生から一般まで、12の部門で競われるスキー大会。

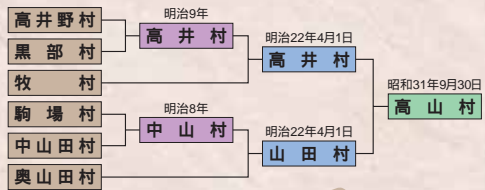
日本一のロングツアー
 タコチツアーコース。

山田牧場から山田温泉まで、標高差八〇〇mを下ってゆくタコチツアーコースは、全長三kmという超ロングツアーコース。変化する周囲の自然を楽しみながら、日本一のロングライドイングを満喫できます。一月から三月まで、土・日・祝日にはガイドツアーも行われていますので、初級者でも楽しむことができます。上級者にはショートカットコースも用意されています。

高山村 五十年の軌跡

高山村誕生物語

先人が築いたふるさと



現在の高山村を形成している地域は、江戸の昔は六村でした。その後合併により明治八年には四村、さらに明治二十二年には、高井村、山田村の二村となります。以後この二村の時代が六十余年にわたって続きました。

いました。そうした気運のなか、現在の高山村地域でも、高井村、山田村の合併促進の動きが始まりました。

両村ではそれぞれ、上高井地方事務所から所長を招き、町村合併促進法についての説明会などを開いた結果、国の行政事務の地方に向けた再配分に伴って行政体を拡充することの必要性が確認されたのです。

これを受けて、両村では合併に向けての条件案を策定し、両村で協議を行いました。種々の点で双方の合意が得られませんでした。

その後、幾度か開かれた合併協議会でも物別れに終わり、この合併案は暗礁に乗り上げた形となってしまいました。

しかし、町村合併促進法が効力を失うまであと一ヶ月と迫った時、県地方事務所より調停案

が提示されました。

結局これが、両村の持ち寄る財産、役場庁舎、統一中学校の設置場所など、それまで合意に至らなかった懸案事項解決の糸口となり、昭和三十一年九月十八日、山田村役場で開かれた合併協議会の席上、新しい村の名称を「高山村」とする旨が満場一致で決定され、翌十九日には両村が各村議会を招集し、合併申請議案をそれぞれ全会一致で可決しました。

そして、十九日夜に高井村役場において、高井村、山田村を廃し、その区域に九月三十日



を以て高山村を設置する」という、合併申請書に調印がなされたのです。

こうして、二年八月に亘り難航を重ねた合併論争に終止符が打たれ、高山村が誕生しました。

旅立ちの時

新時代創出への夢と希望にあふれて

昭和三十一年九月三十日、高山村が誕生しました。新村域の中央に役場新庁舎や統合中学校が相次いで建設され、さらに活力ある農山村の建設をめざして、道路や橋の新設・改良が進みました。

また南志賀温泉郷観光協会が設立され、温泉と高原、スキーを活用した観光振興が推し進められていきました。



【昭和31年】合併調印式高井村と山田村が合併し高山村が誕生した



合併に関する協定書



【昭和33年】高井橋建設工事



【昭和33年】第4回郡下縦断町村対抗駅伝で高山村優勝



【昭和32年】完成した役場庁舎

1956・1965

昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年
1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1965年
9月 高井村・山田村合併 高山村発足	2月 高山村公民館 館長 創刊	2月 高山村連合婦人会 結成	4月 新村建設事業 久保 荒井原東線開通	11月 消防団本部に常設消防車を購入	4月 全国結核予防普及大会で高山村が厚生大臣賞を受賞	5月 ヘリコプターによる空中防除始まる	4月 奥山田分校独立し、奥山田小学校となる	9月 越二郎氏、高山村第1号名誉村民となる	3月 村内団体電話共電式となる加入戸数469戸
12月 初代村長に黒岩義惟氏就任	9月 新村初の村議会議員選挙(定数22名)	4月 高井橋永久橋架設工事竣工	7月 団体加入電話開通(加入戸数140戸)	12月 山田温泉で村内初の舗装道路完成	7月 南志賀観光協会設立	11月 高井小学校八十周年記念行事開催	11月 冬期山田牧場バス運行開始・山田牧場に「千」リフト2基完成	10月 黒岩一實氏、第2代村長に就任	4月 山田保育園開園
9月 役場庁舎竣工	10月 第4回郡下縦断町村対抗駅伝で高山村優勝	8月 台風7号・15号襲来 被害総額3億7800万円	11月 七味温泉・五色温泉に電気導入	12月 高山中学校竣工	11月 南志賀観光協会設立	12月 念行事開催	11月 リフト2基完成		

【昭和35】完成した統合高山中学校



発展する村へ

人口減少から増加へ、大きく変化した高山村

日本中が高度成長に湧いた時代。しかしそのひずみは農山村の過疎化となって現れました。本村でも昭和三〇年代から始まった人口減少に歯止めをかけることが大きな課題でした。

村営による宅地造成、村内外を結ぶ道路橋梁の整備、農業構造改善事業の取り組みなどにより、村人口は増加に転じます。昭和四十年代に六、〇〇〇人にまで減少した人口は、昭和六十年には七、三〇〇人台を回復し、さらにはめざましい発展を遂げていくことになりました。

無秩序な開発を抑制し、住民の快適な暮らしを支える環境整備に大きな力が注がれていきました。



【昭和43年】高井・山田両農協合併調印式



【昭和42年】沖渡橋永久橋架設工事竣工



【昭和43年】南志賀（七味笠岳線）バノマルト開通記念祝賀会

1966・1985

【昭和41年▶昭和60年】



【昭和49年】林道湯沢線開通



【昭和45年】
県下一の大型
りんご冷蔵庫完成



【昭和51年】高井砂防ダム竣工



【昭和53年】村制施行二十周年・高山小学校竣工記念式典



【昭和58年】
湯倉洞窟九次発掘調査
において7000年前の
人骨発見



【昭和59年】新役場庁舎竣工



【昭和58年】林道山田入線竣工

【昭和41年】	9月 村議会議員選挙 定数16名に 東部運動広場竣工
【昭和42年】	5月 北部運動広場竣工 8月 第1回育成会対抗駅伝開催 9月 歴史民俗資料館開館 11月 新役場庁舎開庁
【昭和43年】	7月 湯倉洞窟で7000年前の人骨発見 11月 林道山田入線全面開通
【昭和44年】	4月 地力増進施設運転開始 8月 台風10号襲来被害総額9億3049万円 12月 奥山田基幹集落センター竣工 12月 北部農業者トレーニングセンター竣工 12月 クリーンセンター竣工
【昭和45年】	9月 高山村歯科診療所竣工 9月 高山村青年団、バレーボール県大会で優勝 12月 学校給食センター1完成
【昭和46年】	4月 広報たかやま創刊 4月 老人福祉センター 松の湯荘竣工 10月 村歌・村民憲章制定 12月 高井トレーニングセンター・運動広場竣工
【昭和47年】	1月 村章制定 4月 高山小学校開校 村内3小学校統合 4月 村制施行二十周年記念式典
【昭和48年】	9月 水道管改良整備工事5ヶ年計画着工
【昭和49年】	5月 開場で湯沢焼窯跡発見・確認調査 11月 高井砂防ダム竣工 11月 久保田常吉氏 第3代村長に就任
【昭和50年】	3月 奥山田小学校 開校百周年記念式典開催 11月 山田小学校 開校百周年記念式典開催
【昭和51年】	8月 林道湯沢線開通
【昭和52年】	4月 高井保育園移築 4月 山田保育園移築
【昭和53年】	10月 高井保育園開園 10月 村民体育祭、台風20号被害のため中止
【昭和54年】	4月 高井保育園竣工 6月 湯倉洞窟発見 11月 奥山田基幹集落センター全面舗装完成
【昭和55年】	4月 県下一の大型りんご冷蔵庫完成 6月 湯倉洞窟発見 11月 奥山田基幹集落センター全面舗装完成
【昭和56年】	6月 小串鉦山開山 8月 湯沢橋永久橋竣工 10月 高山農協(現 須高農協高山支所)前に村初の信号機設置
【昭和57年】	6月 林道湯沢線トンネル橋完成 7月 南志賀(七味笠岳線)バノマルト開通 11月 明治百年記念植樹(高山中学校学校林)
【昭和58年】	4月 高井・山田森林組合合併 高山村森林組合発足 4月 役場前団地を緑ヶ丘団地と命名 9月 高井りんご橋架設工事竣工 12月 湯倉洞窟九次発掘調査(普及率63%)
【昭和59年】	3月 牧分枝開校90年の歴史に終止符 9月 高井りんご橋架設工事竣工 12月 電話の自動化(普及率63%)
【昭和60年】	4月 高井・山田両農協が合併、高山村農業協同組合発足 6月 湯沢橋永久橋架設工事完成
【昭和61年】	3月 福島正則屋敷跡(指定文化財)となる 6月 堀之内 宅地造成はじまる 9月 奥山田診療所新築竣工

共生する村へ

いち早く環境との共生に取り組んで

昭和から平成へと年号が移り変わる中で、高山村では、新しい時代の「高山村」のあり方を見据えた取り組みが次々に行われていきました。さまざまな温泉利用施設や「一茶ゆかりの里」一茶館」が建設されるなど、村外の方々と交流をめざした活動が展開されていきます。また、環境に配慮し、安全・安心な農産品づくりへの取り組みも活発化していきました。



【昭和63年】高山中学校改築工事竣工



【平成元年】山田温泉改築工事竣工



【平成2年】第五分団県大会優勝



【平成5年】YOU遊ランド竣工



【平成8年】信州高山「新能」開催



【昭和63年】高山大橋開通



【昭和61年】タイムカプセル埋設作業



【平成16年】水中のしだれ桜で映画「北の零年」撮影



【平成8年】一茶ゆかりの里一茶館竣工



【平成10年】冬季オリンピック聖火リレー村内を走る



【平成17年】スペシャルオリンピックスロベニア選手団来村



【平成16年】牧5号線「ゆうゆう橋」竣工

1986・2006

【昭和61年▶平成18年】

【昭和61年】	3月	山田診療所竣工
【昭和62年】	8月	鎌田砂防ダム竣工
【昭和63年】	10月	村制施行二十周年記念式典・タイムカプセル埋設、村歌・村木制定
【昭和64年】	5月	農村情報連絡無線施設定期放送開始
【昭和65年】	8月	第1回信州高山まつり開催
【昭和66年】	2月	奥山田ふるさとセンター竣工
【昭和67年】	4月	消防署高山分署発足
【昭和68年】	10月	高山中学校改築工事竣工
【昭和69年】	11月	高山大橋開通
【昭和70年】	11月	藤温泉ふれあいの湯オープン
【昭和71年】	11月	小出清氏、第4代村長に就任
【昭和72年】	9月	国際交流活動の一環として、語学指導講師を招く
【昭和73年】	10月	山田温泉大湯改築工事竣工
【昭和74年】	8月	県消防ポンプ操法大会、小型ポンプ操法で第五分団が初優勝
【昭和75年】	12月	高山村除雪センター竣工
【昭和76年】	9月	台風19号襲来被害総額2億4200万円
【昭和77年】	12月	高山村除雪センター竣工
【昭和78年】	3月	高山中学校屋内運動場竣工
【昭和79年】	3月	黒岩一實氏に高山村名誉村民称号
【昭和80年】	5月	YOU遊ランドオープン
【昭和81年】	9月	部落解放・人権尊重の村宣言
【昭和82年】	3月	スパイクタイヤ禁止区域となる
【昭和83年】	4月	「ユササ」にセンター・身障者共同作業所開所
【昭和84年】	5月	特定環境保全公共下水道一部供用開始
【昭和85年】	9月	台風20号襲来被害総額1億1876万7千円
【昭和86年】	11月	高山小学校校バス停に信号機設置
【昭和87年】	3月	市外局番「026」から「096」の3桁に
【昭和88年】	1月	国土調査事業「高井・牧」中山地区完了
【昭和89年】	8月	YOU遊ランドで新能開催
【昭和90年】	11月	村制施行四十周年記念式典開催
【昭和91年】	11月	一茶ゆかりの里「一茶館」オープン
【昭和92年】	11月	黒岩鶴男氏、第5代村長に就任
【昭和93年】	6月	日南原産業団地竣工
【昭和94年】	1月	名誉村民黒岩一實氏村葬
【昭和95年】	2月	冬季オリンピック聖火リレー村内を走る
【昭和96年】	9月	台風7号襲来被害総額5億3000万円
【昭和97年】	10月	戸籍事務電算化
【昭和98年】	12月	高山中学校 第1回中学生議会開催
【昭和99年】	3月	地力増進施設竣工
【昭和100年】	3月	地域振興券発行
【昭和101年】	4月	高山村誌編纂事業開始
【昭和102年】	5月	山田温泉開湯一〇〇年記念祭開催
【昭和103年】	11月	鎌田橋梁整備事業竣工
【昭和104年】	4月	第1回信州高山まつり開催
【昭和105年】	7月	高井運動広場夜間照明施設竣工
【昭和106年】	3月	農業集落排水事業完了
【昭和107年】	9月	神奈川県一宮町との地域間交流事業開始
【昭和108年】	10月	山田牧場、開牧百周年記念祝賀会開催
【昭和109年】	10月	全村下水道整備竣工
【昭和110年】	10月	高山おんせん朝日ホム△開所
【昭和111年】	4月	YOU遊ランド健康増進事業開始
【昭和112年】	10月	第1回信州高山紅葉トレッキング開催
【昭和113年】	10月	藤温泉ふれあいの湯来場者200万人達成
【昭和114年】	4月	保健福祉総合センターオープン
【昭和115年】	4月	高山村児童クラブ開設
【昭和116年】	4月	山田温泉に足湯オープン
【昭和117年】	4月	水中のしだれ桜で映画「北の零年」撮影
【昭和118年】	4月	合併問題住民アンケートで自律を選択
【昭和119年】	10月	牧5号線「ゆうゆう橋」開通
【昭和120年】	11月	高山小学校高層補強・大規模改修工事竣工
【昭和121年】	11月	久保田勝士氏、第6代村長に就任
【昭和122年】	2月	スペシャルオリンピックスロベニア選手団来村
【昭和123年】	2月	環境保全型農業推進コンクール農林水産大臣賞受賞
【昭和124年】	4月	白律元年スタート
【昭和125年】	4月	信州高山桜植樹祭とお花見の集い開催
【昭和126年】	6月	降ひょうによる被害被害総額2億9300万円
【昭和127年】	8月	高山中学校女子バレーボール部、全国大会出場
【昭和128年】	11月	大田三郎氏に名誉村民称号
【昭和129年】	4月	女子美術大学、須高ケーブルテレビとの産学官連携地域文化創生事業スタート
【昭和130年】	5月	ワインぶどう栽培始まる
【昭和131年】	9月	村誌編纂事業完了
【昭和132年】	11月	高山村歌改訂
【昭和133年】	11月	村制施行五十周年記念式典、タイムカプセル開封
【昭和134年】	11月	高山村景観検討委員会設置
【昭和135年】	11月	統合保育園造成工事着工

事業記念周年五十行制村高山

平成18年度

事業記念周年五十行制村高山

11月3日

村制施行五十周年記念式典

高山中学校体育館において国務大臣や多数の来賓、村民の列のもと厳肅に開催しました。式は中学生の司会進行により村長表彰などの表彰式、作文コンクールの最優秀作品の発表、中学生による改訂村歌の披露などを行い、新たな門出にふさわしい式典となりました。



万歳三唱



中学生による司会進行



村長あいさつ

11月3日

タイムカプセル 開封・埋設式

村制施行三十周年記念の昭和61年10月に埋設されたタイムカプセルを開封し、また新たに20年後の2026年に開封される新カプセルの埋設を行いました。世紀を越えて開封された旧カプセルには、20年前の村民の想いがそのまま収納されており、参加した皆さんは感慨もひとしおでした。名譽村民である太田三郎氏から奇贈いただいた新カプセルには、未来に向けたメッセージや旧カプセルから更に20年後に引き継ぐ品々が多数収納され、「輝く未来」に向け埋設しました。



新カプセル埋設



新カプセルと太田三郎氏



11月3日

記念講演

女優であり農政ジャーナリストの浜美枝さんによる記念講演を行いました。浜さんは、現代社会の諸問題を解決するには日本の農業や食を児童す必要があり、高山村には美しい自然や美味しいうちものがたくさんあるので、これらを大切に山村づくりを進めれば更に魅力的な村になると話されました。



11月3日

村歌改訂

昭和55年に制定された高山村歌を、村制施行五十周年を機として、「村民憲章及び村歌制定委員会」に諮って見直しを行い、村制施行五十周年記念式典で改訂村歌を披露しました。



11月3日

「私たちの描く高山村の将来」作文コンクール

高山村の未来に対する夢や希望をテーマに作文コンクールを行い、小学校の児童生徒から76点の応募をいただきました。最優秀賞は、藤沢佑那さん（小学生低学年の部）、湯本康一朗さん（小学生高学年の部）、中澤一樹さん（中学生の部）が受賞し、村制施行五十周年記念式典において発表をしていただきました。



11月3日

「村制施行五十周年 キャッチフレーズ」募集

268点の応募の中から宮川侑穂さんの「輝け未来 受け継ぐ伝統」が最優秀作品となり、記念事業に活用させていただきました。



11月3日

村制施行五十周年記念フォトコンテスト

「信州高山の四季...ふるさと再発見」をテーマとしてフォトコンテストを行い、村内外から233点の応募をいただきました。最優秀賞には、岩淵憲志さん（長野市撮影）の「秋の深谷」(写真)が選ばれました。



4月22日

さくら街道植樹祭

「さくら街道をつくらう」という中学生の提案により、保健福祉総合センターからゆうゆう橋の沿道に桜を植える「さくら街道植樹祭」を、清々しい晴天のなかで行いました。



7月1日

NHK健康フェア、食育・健康フェア in 信州高山村

「食」と「健康」をテーマとした公開放送「NHK健康フェア、食育・健康フェア in 信州高山村」を高山中学校体育館で開催しました。先端医療に携わる先生の講演や郷土料理を紹介する番組の収録に2000人を超える来場者があり、食と健康について関心を高めるとともに村の食文化を全国に発信しました。



8月27日

スポーツゲームズ in 信州高山

元オリンピック選手などのトップアスリートが村内の小中学生を指導する「スポーツゲームズ in 信州高山」に小中学生を中心に500人以上が参加しました。



9月30日

高山村誌全三巻刊行

平成11年から7年7ヶ月の歳月を費やした村誌編纂事業が、「自然編」「歴史編」「地誌編」の全3巻の刊行により完結しました。本誌は村外の研究者から高い学術書としての評価をいただくとともに、村民が地域の歴史などに関心をよせる契機となっており、将来にわたって村民の心の糧となることが期待されます。



信州高山温泉郷マップ



奥山田温泉

北アルプスのパノラマを満喫
標高1,500mの山田牧場にある高原の温泉。浴場から眺める北アルプスの展望は爽快。ゆったりと浸る気分は最高です。



五色温泉

五色に変化する不思議の湯
その日の天候によって湯の色が五色に変化することから五色温泉。昔ながらの風情を伝える素朴な一軒宿です。



蕨温泉

田園の中にたたずむ「ふれあいの湯」
北信濃の山々を展望する田園の中に建つ村営共同浴場施設。隣接して宿や食事処があります。



YOU遊ランド

森林スポーツ公園の温泉
YOU遊ランドは、温泉プールなど、さまざまなスポーツ施設が集まった総合的なリフレッシュ施設です。



七味温泉

松川渓谷最上流の温泉地
7つの源泉を持つことから名づけられた七味温泉。松川の上流にあり、情緒豊かな渓谷沿いの露天風呂が人気です。



松川渓谷温泉

岩風呂が自慢の自炊の宿
湯治場本来の趣きをももたえている自炊の一軒宿。大きな野天岩風呂は、おらかな気分で入浴が楽しめます。



山田温泉

開湯200年を超える名湯
森鷗外、与謝野晶子ら、多くの文人墨客に親しまれてきた山田温泉。桃山風の建築が目を引く大湯や足湯が人気です。



子安温泉

赤褐色の湯が特徴
安産・子授け・子育ての神様を祀る子安神社の近く、森に囲まれた静かな湯。赤褐色の湯が特徴です。

奥山田温泉

五色温泉

松川渓谷温泉

山田温泉

蕨温泉

子安温泉

YOU遊ランド



山田温泉 足湯

癒しともてなしの心。 湯つづきの里たかやま

つかれもなやみもあつい湯にずんぶり
種田山頭火

松川渓谷に沿って、八つの湯。
高山村を深いV字の渓谷で分ける松川のほとりには、谷筋に沿って八つの温泉が点在し、信州高山温泉郷を形づくっています。上流から下流まで、奥山田温泉、七味温泉、五色温泉、松川渓谷温泉、山田温泉、蕨温泉、子安温泉、そしてYOU遊ランド。
その多くは古くから湯治の宿、癒しの温泉場として受け継がれた伝統を持ち、また多くの文人墨客にこよなく愛された歴史を持っています。今もなお、かつての風情を色濃く残して渓谷に横たわる八つの湯は、松川渓谷の自然美とともに、高山村が世界に誇る宝物。気ままにゆったり、のんびりと、湯つづきの里の湯巡りをお楽しみください。

信州高山の味覚を
まろごと体験。



信州高山を訪れる観光客の皆さんに、高山村ならではの味覚や季節の歳時を直接体験していただくという体験プランをご用意しています。水と緑に恵まれた山の里ならではの旬の味覚をぜひ味わってみてください。

モチモチ体験プラン

昔ながらの畑で、もち米の田植え、稲刈り、餅つきなどを体験していただくプラン。

信州高山「総ぞりりんご」収穫祭

寒暖の差が大きく、日当たりのよい信州高山は、美味しりんごの名産地。自慢のりんごを自分の手で収穫していただくプラン。



水と大地の恵みを活かして。 環境にやさしい農の里

環境にやさしい
環境保全型農業の先進地

高山村は、人と自然にやさしい環境保全型農業に、いち早く取り組んできた全国有数の先進地です。はじめは昭和五十七年、地力増進施設を開設し、村内の家庭や事業所から出る生ゴミなどを発酵させて良質な有機堆肥をつくる取り組みでした。当初は、ビニールなどの異物が混ざっていたり、堆肥づくりの技術面での問題など、さまざまな困難がありましたが、村民のみならず一人ひとりの理解と協力を得て改善され、現在では年間約六〇トンもの良質な堆肥「フクイハラコンボ」が村内の農家に提供されています。

もうひとつの特徴は、平成三年から始まった人工フェロモンを利用する減農薬栽培の取り組みです。これは害虫のメスが出す性フェロモンを人工的につくって果樹園に設置することで、害虫の交尾を妨害し、発生を抑制する防除方法です。安全で安心、おいしい高山村の農産品づくりに貢献しています。今、高山村は環境にやさしい先進的農業を実践する農の里として全国の注目を集めています。これからもさらに先駆的な技術や取り組みを進めようとしています。



エコファーマー認定書交付式

エコファーマー認定農家の多さは、安全で安心な高山ブランドの証です。

エコファーマーは、平成十一年七月に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）」に基づいて設けられた認定農業者制度です。つまり環境にやさしい農業生産を担うのが「エコファーマー」。

高山村では、りんご農家、米生産農家を中心に、平成十八年度までに二八二名の農業者が県知事による認定を受けています。これは、長野県内では中野市に次いで二番目の認定者数となっています。

高山村では、安全で安心な高山村の農産物を広く消費者の皆様に理解していただくため、エコファーマー認定の取得支援を積極的に進めています。

エコファーマー
環境にやさしい農業をいっしょに





YOU遊ランド 水中運動教室



高山村保健福祉総合センター チャオル

村民みんなで健康づくり。
健康は、笑顔の原点。高山村では「YOU遊ランド」を活用した村民の健康増進事業などが進められています。
温泉プールでの水中運動教室やトレーニングルームなどを通じて、村民の皆さんの健康づくりをサポートしています。
またメタボリックシンドロームの予防や改善、運動不足の解消など、村民の皆さんが大きな関心を寄せている課題に応えるさまざまな教室や個別指導、健康相談なども行われています。



みんながいきいき、元気な里

チャイルドもオールドも みんながいきいき、元気な里。

全国的に少子化が進む中、安心して子どもを生み育てることのできる環境づくりは大切な課題となっています。高山村は、出産祝金の交付や、乳幼児や児童への福祉医療費特別給付金の支給対象を拡大し、経済的負担の軽減を図る見直しを行っています。
また、子育て支援センターを併設した新しい高山村統合保育園が、平成二十年四月の開所をめざして、建設工事が進んでいます。村産のスキヤカラマツ材を活用して、環境との調和がとれた潤いゆとりにあふれた施設。未満児保育事業を実施するなど、充実した保育サービスの提供をめざしています。

子育て支援に取り組んでいます。



高山村統合保育園完成イメージ



「チャオルの森」は、元気な笑顔に出会える場所。総敷地面積一六、四八六㎡という広々とした緑の空間の中に、高山村保健福祉総合センター「チャオル」を中心として、健康づくりやふれあい、憩いの場などのさまざまな施設や機能が集まっています。
その中心である「チャオル」は、平成十五年に開設され、村民の皆さんに保健・福祉・医療の公共サービスを一体的に提供する拠点として、安心して健康な毎日を送っていただくためのサービスを提供しています。子どもから高齢者まで、誰もが生きがいを持っていて安心して暮らせる体制づくりを進めています。

チャイルドからオールドまでやさしい、それが「チャオル」。

梅



一茶の代表作『父の終焉日記』



アニメーション『父の終焉日記』



一茶逗留の離れ家

豊かな伝統と文化の継承。 一茶ゆかりの里たかやま

湯倉洞窟遺跡からは、縄文早期に埋葬された湯倉人が発見され、この地が七〇〇〇年もの昔から、豊かな暮らしと文化を営む里であったことを伝えていきます。

古代には高位牧が営まれ、中世には山田高梨氏が治め、駒場は關山國師の生誕の地といわれています。

近世には善光寺平と上州を結ぶ道の要衝として栄えるとともに、気候風土を活かした豊かな生活文化が息づきました。戦国の武将として知られる福島正則公が幕府によって所領没収となった後、高井郡と魚沼郡に扶持を与えられ、晩年を過ごしたのも高山村です。堀之内地区には福島氏の居館跡が残されています。

そうしたはるかに遠い昔から近代に至る、先人の歴史や生活文化の歩みを伝えてくれるのが、高山村歴史民俗資料館です。

館内には、湯倉洞窟遺跡や藤沢焼の関係資料をはじめとし、近世の人々の暮らしを物語る厩(うまや)や機織り、民俗文化資料などが展示されています。

文化財については、41頁をご覧ください。



湯倉洞窟遺跡



村の生活歴



高山村歴史民俗資料館

北信濃が生んだ俳人小林一茶。その晩年、一茶は高山の里に足繁く訪れ、多くの門人たちと交流を重ねました。門人の一人久保田春耕が提供した離れ家が今も残されているほか、一茶の代表作である『父の終焉日記』、『花巻帖 浅黄空』、『筆記 俳諧守抄 録』原本など数多くの貴重な遺墨が伝わります。また村内の各所に、一茶の句碑が建てられており、文字とあり「一茶ゆかりの里」の風情を色濃く残しているふるさとです。

紫地区にある「茶ゆかりの里一茶館」は、そうしたふれあいの歴史を保存するとともに、小林一茶研究の拠点として設けられている施設。多くの一茶ファンや俳句愛好家が訪れ、俳句を通じた文化交流も盛んです。

毎年行われている一茶ゆかりの里俳句大会には、全国から多くの参加があります。一茶を学ぶ会や、小中学生俳句大会といったイベントも行われ、「一茶館」には投句箱も設けられています。あなたも、楽しい俳句の世界を体感してみませんか。

ここは俳人一茶ゆかりのふるさとです。



扇面額(文化5年)
『名月の 御覧の通り 扇家哉』



付木



一茶ゆかりの里 一茶館
模型と映像を駆使した映像小劇場『一茶・こころの旅』やアニメーション『父の終焉日記』などで人間小林一茶を紹介。貴重な遺墨なども見ることができます。

建物は、最高裁判所などを手がけた岡田新一氏による設計。一茶の曲折した心情を異形ともいへべき屋敷の形で表現しています。



とから、ワインぶどう栽培に向けて、「高山村ワインぶどう研究会」が平成十八年に結成され、本格的な栽培がいよいよスタートしました。

さまざまな英知を結集して。

村内に開設されたワインぶどう展示圃場では、白ワインの代表品種であるシャルドネが植えられ、誰でも気軽に見学し、栽培管理の仕方や棚づくりの方法などを学ぶことができます。

また研究会には専業農家だけでなく、さまざまな分野の方々が参加し、ワインの醸造や商品化について研究を進めています。栽培についても、新たに農業を始める株式会社に参加するなど、これまでにない農のあり方が広がりはじめています。

「ワインといえば高山村」と言われるようになる日が来るのも、そう遠い将来ではないかも知れません。

地域特性を活かしたワインぶどう栽培

寒暖の差が大きく日照に恵まれた高山村は、おいしい果樹の栽培に適した地。その環境条件を活かして、りんごやぶどうなどの特産品をつくり出してきました。そして今、新鮮なおいしさのふるさことから、新しい特産品が生まれようとしています。

本格的な栽培がスタートしました。

ワインぶどうは、おいしいワインを造ることを目的として改良されてきたワイン専用品種です。生食用ぶどうとは生育の条件や栽培方法が異なりますが、高山村の気候や土壌条件が適しているこ

新しいチャレンジ次々に。 新しい「農」への挑戦。



ワインぶどう栽培農地貸借契約・栽培協力協定調印式

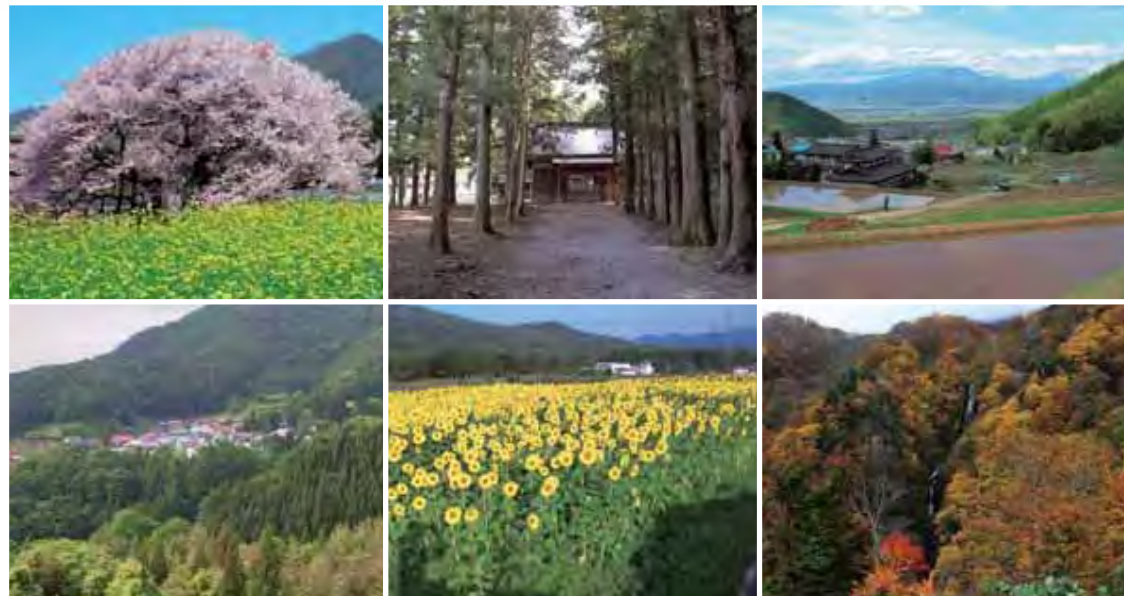


そして未来へ

未来へ向けた
高山村のとりくみ

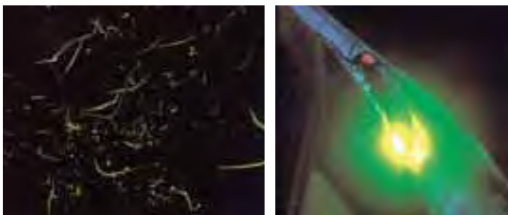






ホタルがいっぱいに舞つふるさとへ。

ホタルは自然環境のパロメーターと言われる。水と土と植物からなる、川辺の環境が良好に保たれていない限り繁殖しないからです。そんなホタルが舞つふるさとへの風景を取り戻すために、村内には各地区でホタルの会が設けられ、水路の整備や調査、勉強会などを重ねています。高山小学校では児童と保護者がホタルを通して環境保全の大切さを学ぶ観察会が行われたり、またホタルの成育にやさしい無農薬の水稲栽培への取り組みなども行われています。



村民協働で進める 美しいふるさと づくりへの挑戦。

かけがえない信州高山の
景観を未来へ伝えよう。

高山村は、日本の山里の原風景を思わせる里山や美しく豊かな自然が息づく村。その景観は、村を訪れる多くの人々にも感動を与えています。そんなかけがえない財産を未来へと受け継いでいくために、村では村制施行五十周年を契機として、本格的な景観づくりに取り組んでいます。

平成十八年には村内の有識者等からなる景観検討委員会が設置され、村民の皆さんのご意見をお聞きしながら、これからの景観計画や景観条例の制定に向けて、真剣な議論が行われています。

松川渓谷をはじめとする上信越高原国立公園の自然景観、扇状地に広がる果樹や田畑の田園景観、そして里山の暮らしを伝える集落景観など、次の五十年、一〇〇年の未来を見据えた取り組みが進められています。



おてんまで地域づくり。

この地域では古くから、道路の整備や清掃、山の手入れなど地域の皆さんが共同で公共的な作業に取り組むことを「おてんま」と呼んでいます。「おてんま」は、その昔、街道や宿駅の整備や荷役に周辺の住民がでた賦役「御伝馬」に由来すると言われていますが、現代風には地域ボランティア、人と自然が共存して暮らしていくための知恵なのです。

高山村では、村民と行政との協働による活力ある村づくりの一環として、平成十七年度から「おてんま支援事業」を実施しています。

主に村民が組織する団体等が自ら行う事業に対して、原材料の支給、機械等の貸し出しや技術的なアドバイスをしています。



新しい高山村の発見と創造へ 産学官連携の村づくりへの挑戦。

高山村を創造表現のステージに、
女子美術大学と連携。

平成十八年四月、高山村と女子美術大学（神奈川県相模原市）、須高ケーブルテレビ株式会社三者が列席し、産学官連携地域文化創生事業の協定を締結しました。

これは、信州高山村をフィールドとして、女子美術大学が授業の一環としての活動を行い、学生の視点から高山の魅力を発見し、表現し、提案していただくという取り組み、須高ケーブルテレビが村内の光インフラ設備などを



を提供するほか、村民と学生とのふれあいの模様を番組化し、内外に発信していく活動も併せて進められています。すでに多くの学生が村を訪れ、それぞれのテーマに沿ったワークショップや交流などのプロジェクトに取り組んでいます。



開かれた行政をめざして、
ケーブルテレビで情報発信

平成十五年に開局した須高ケーブルテレビ「高山村民チャンネル」。高山村民総出演をめざして各地区の紹介などを行い、村民が主役の番組づくりが評判です。

また村議会の模様を生中継したり、番組を通じ、村の施策をわかりやすく紹介するなど、さまざまな行政情報を発信するメディアとしても大切な役割を果たしています。



活力ある商工業の振興をめざして。

高山村では、異業種での共同研究・共同開発を促進するなど特徴ある地元企業の育成事業や、特産品等の販売を通じ観光PRを図る「ふるさと秋の市」をはじめとした地元事業者が力を合せて行う地域振興活動への補助事業などを通して、頑張る皆さんを応援しています。

また、現在3企業が進出している県営日滝原産業団地に、優良企業の誘致をさらにすめ、自主財源の確保、雇用機会の拡大に努めています。



日滝原産業団地



ふるさと秋の市



村内の主な公共施設

(市外局番 026)

高山村役場	高山村大字高井4972番地 ☎245-1100 ㊟248-0066
高山村民館	高山村大字高井4972番地 ☎245-1100 ㊟251-2470
高山村保健福祉総合センター“チャオル”	高山村大字牧130番地1 ☎242-1200 ㊟242-1205
健康管理センター	☎242-1202
地域包括支援センター	☎242-1203
高齢者福祉センター	☎242-1204
高山診療所	☎242-1210
高山村社会福祉協議会	☎242-1220
障害者等共同作業所	☎242-1220
シルバー人材センター高山事務所	☎242-1212

デイサービスセンター あららぎ荘	高山村大字牧6番地1 ☎242-1221
高齢者交流センター 松の湯荘	高山村大字奥山田3517番地1 ☎242-2750
高山村歯科診療所	高山村大字高井4972番地 ☎248-0866
山田診療所	高山村大字中山1397番地1 ☎245-2351
高山中学校	高山村大字高井4575番地 ☎245-0948
高山小学校	高山村大字高井3455番地 ☎245-0594
高山村学校給食センター	高山村大字高井4575番地 ☎245-6401
高山村児童クラブ	高山村大字高井3455番地 ☎245-2737
高井保育園	高山村大字高井468番地 ☎245-6842
山田保育園	高山村大字中山4358番地 ☎245-2170
聖徳保育園(私立)	高山村大字高井2905番地 ☎248-7719
子育て支援センター	高山村大字高井468番地 ☎246-7445
地力増進施設・ クリーンセンター	高山村大字牧2515番地1 ☎242-2940
山田温泉大湯	高山村大字奥山田3580番地 ☎242-2314
蕨温泉ふれあいの湯	高山村大字奥山田1321番地1 ☎242-2313

歴史公園一茶ゆかりの里 一茶館	高山村大字高井5161番地1 ☎248-1389
高山村歴史民俗資料館	高山村大字牧1629番地口-3 ☎242-2552
YOU游ランド	高山村大字牧73番地 ☎242-2210
おやき茶屋たちべり	高山村大字奥山田1323番地1 ☎242-2929
雷滝 ごろごろ亭	高山村大字奥山田3681番地302 ☎242-2733
八滝 もみじ亭	高山村大字奥山田3681番地524 ☎242-2333
高井警察官駐在所	高山村大字高井3447番地3 ☎245-2349
山田警察官駐在所	高山村大字奥山田3520番地4 ☎242-2618
須坂市消防署高山分署	高山村大字高井4609番地 ☎248-0119
高山郵便局	高山村大字高井525番地5 ☎245-4477
山田郵便局	高山村大字奥山田3606番地1 ☎242-2637
高山村商工会	高山村大字高井4972番地 ☎248-0582
信州高山温泉郷観光協会	高山村大字高井4972番地 ☎245-1100
JA須高	高山支所 高山村大字高井569番地 ☎245-0184
	高山共撰所 高山村大字高井528番地1 ☎245-2348

百年へのパスポート

輝け未来
受け継ぐ伝統

高山村 統計資料編

目次

数字で見る村民の暮らし	34
地勢と気候	34
人口	35
産業	36
保健・福祉	38
教育	39
文化	40
生活基盤	42
消防・交通安全	43
財政	44
村を築いた人々	46

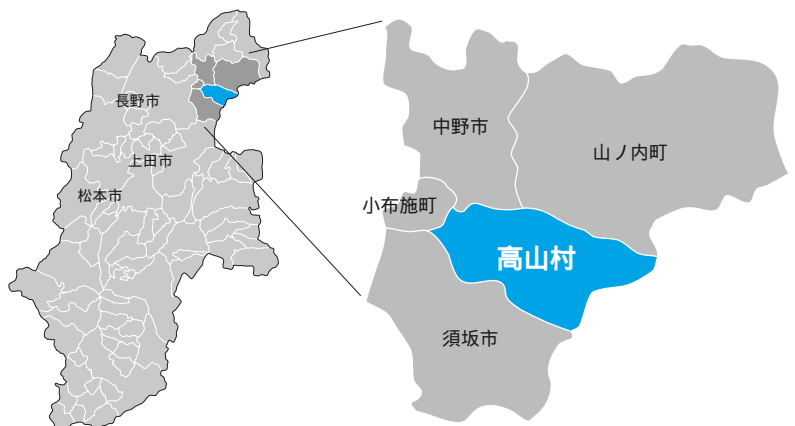
数字で見る村民の暮らし



地勢と気候

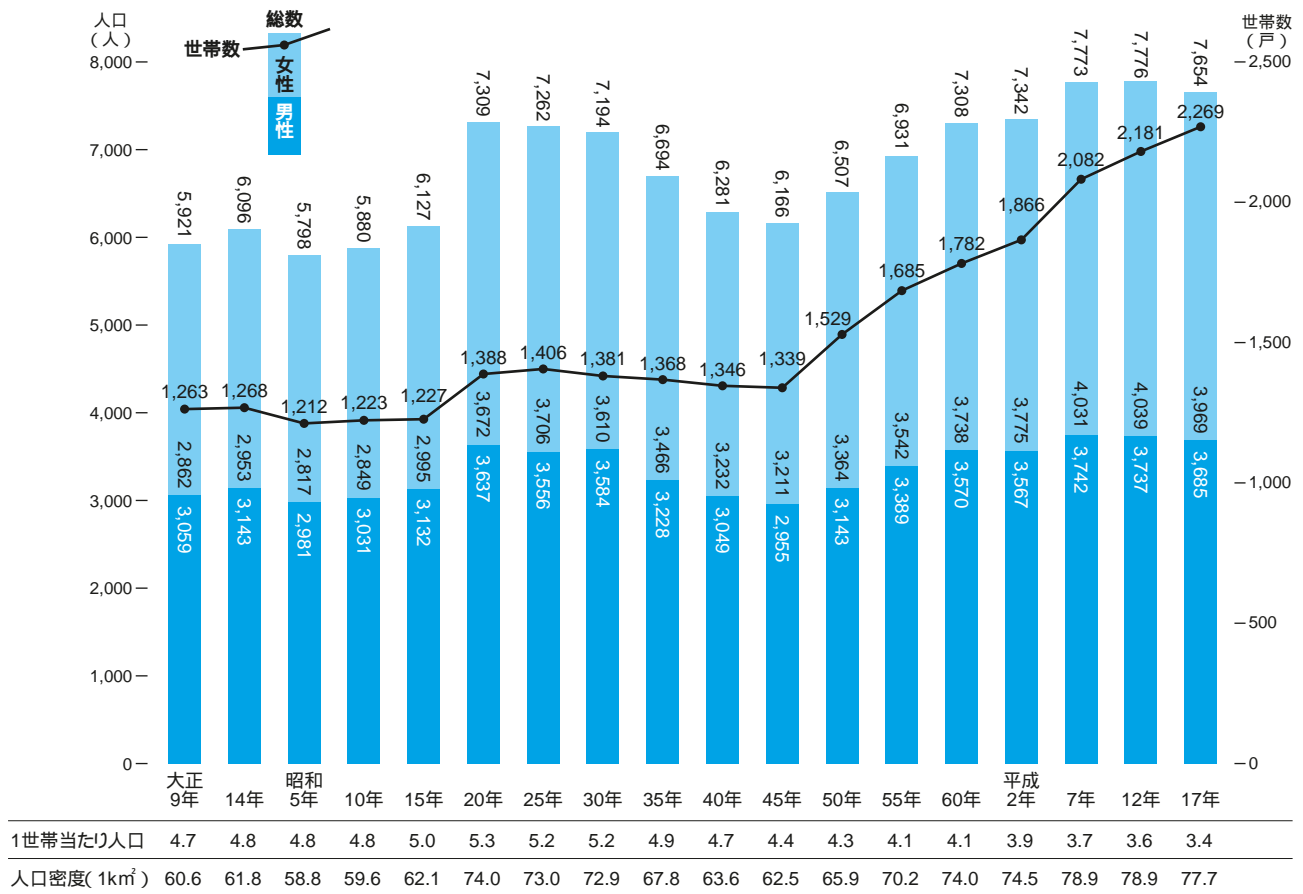
本村は長野県の北東部、県都長野市から東に約20kmに位置し、笠岳をはじめとする上信越高原国立公園の南西麓にひらける松川扇状地に、耕地と26の集落が点在する農山村です。村の総面積は、98.5km²で、84.6%が山林原野で占められています。

気候は、年間平均気温が11.8 と比較的冷涼で、降水量は年間850mm前後です。冬期間の積雪量は、村落部で40cm以上、山間部では2mを越すこともあるため、特別豪雪地帯に指定されています。また、4、5月ごろには晩霜にみまわれる自然環境となっています。



人口

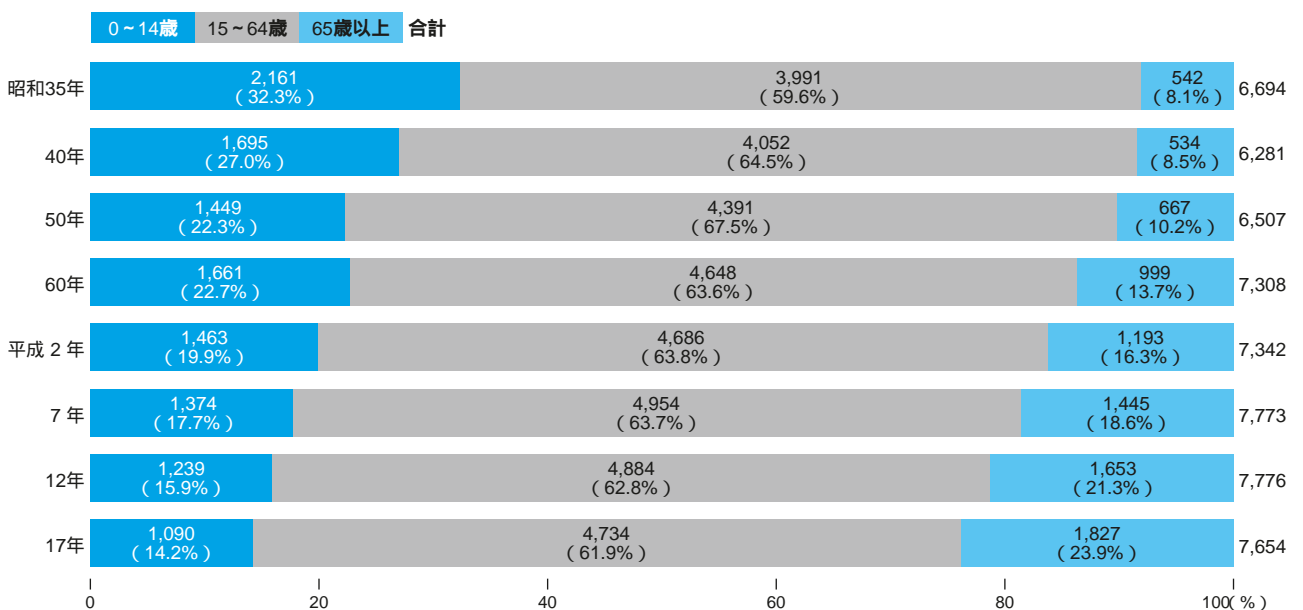
人口と世帯数の推移



(人)

資料:国勢調査

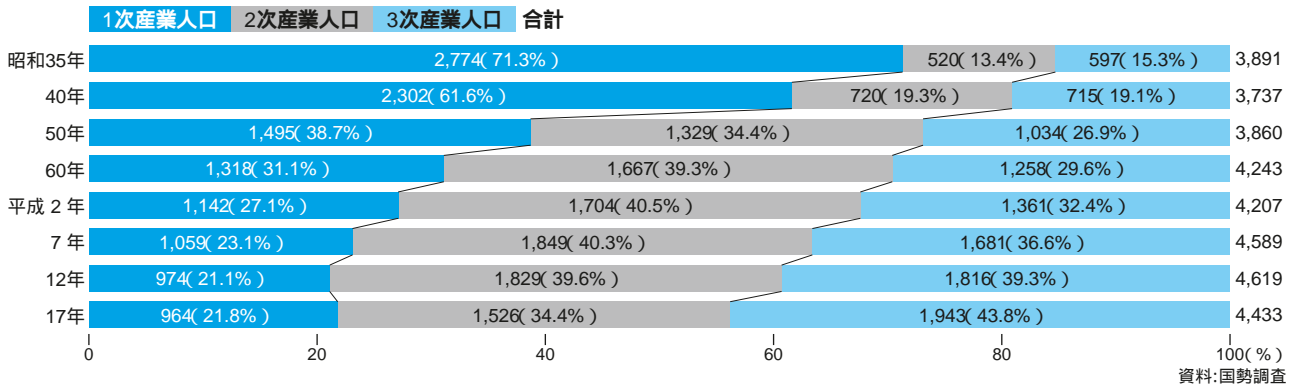
年齢階級別人口の推移



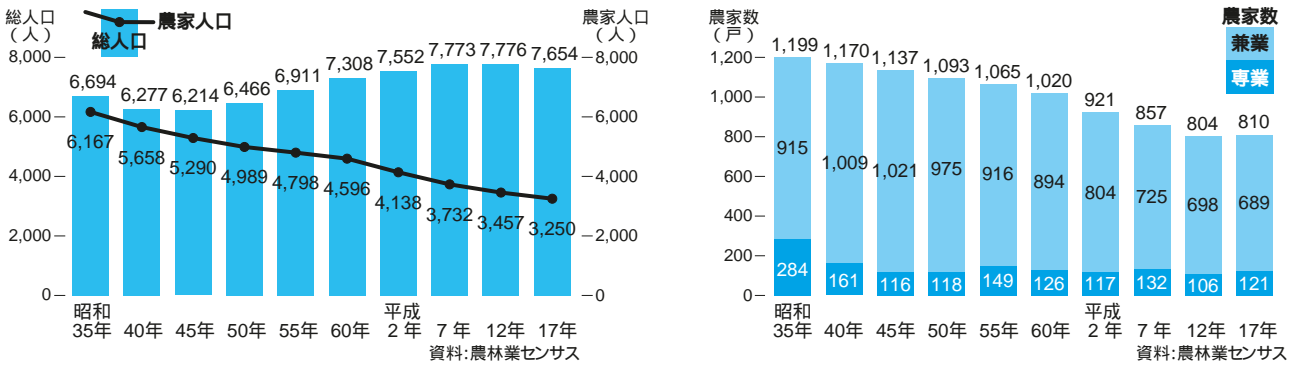
資料:国勢調査

産業

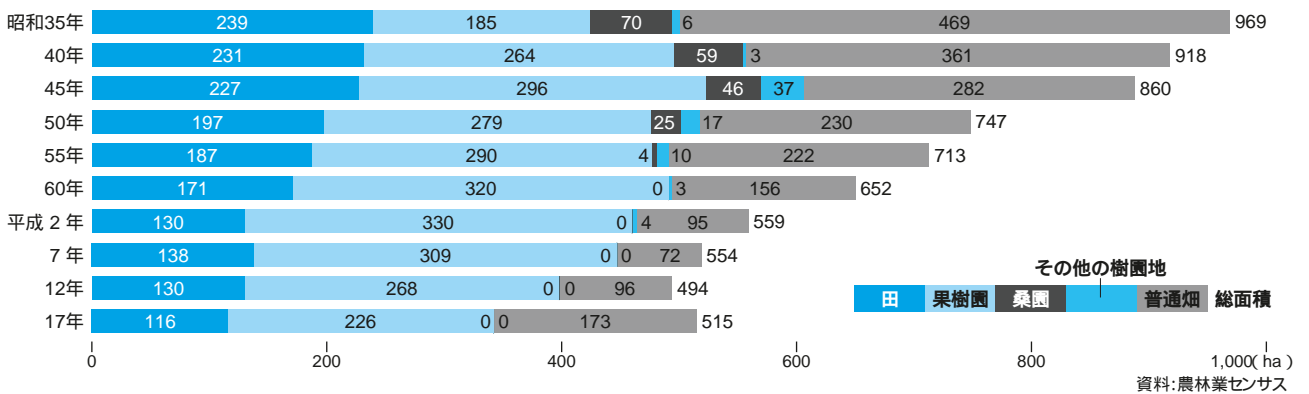
産業別就業者人口の推移



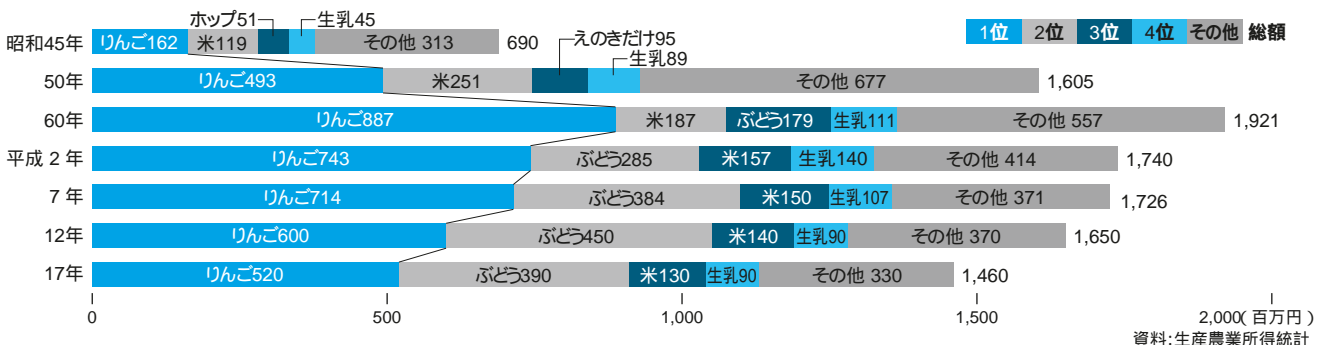
農家数及び農家人口の推移



経営耕地面積の推移



農業産出額の推移



商業の推移

調査年	商店数	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)
昭和45年	55	132	53,679
47年	66	158	65,266
49年	63	150	100,398
51年	59	143	128,821
54年	59	149	169,088
57年	63	214	246,845
60年	54	207	270,393
63年	53	209	259,329
平成3年	50	219	263,580
6年	47	203	305,854
9年	51	256	316,062
11年	46	233	369,585
14年	47	279	474,938
16年	44	257	439,336

資料:商業統計調査

工業の推移

調査年	事業所数	従業者数(人)	年間製造品出荷額(万円)
昭和45年	18	157	37,235
55年	47	423	501,327
60年	58	520	613,868
平成2年	57	612	967,030
3年	62	607	1,006,733
4年	67	591	778,303
5年	72	615	695,349
6年	69	630	992,591
7年	87	712	1,181,050
8年	85	705	1,209,393
9年	84	623	831,638
10年	87	673	912,329
11年	86	635	889,959
12年	81	662	1,011,030
13年	36	502	833,201
14年	33	524	739,730
15年	34	555	766,898
16年	32	619	869,995
17年	33	622	843,486
18年	29	582	915,635

平成13年以降は従業者4人以上事業所を集計した数値

資料:工業統計調査

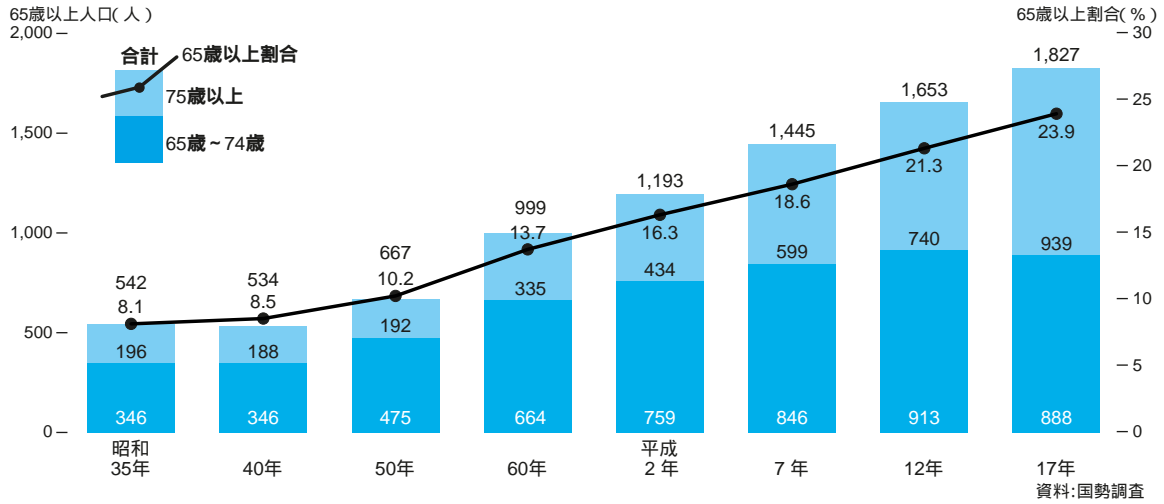
観光客数の推移

調査年	観光客数(百人)					観光消費額(千円)
	総数	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
昭和50年	5,701	1,574	928	2,061	1,138	1,286,170
55年	6,482	1,600	1,046	2,572	1,264	2,876,170
60年	6,182	1,395	1,033	2,529	1,225	2,872,050
平成2年	8,573	2,785	1,181	2,966	1,641	6,161,250
3年	8,300	2,789	1,167	2,764	1,580	5,995,350
4年	8,179	2,760	1,150	2,737	1,532	5,994,550
5年	8,424	2,661	1,257	2,960	1,546	6,175,450
6年	8,301	2,733	1,171	2,885	1,512	6,075,900
7年	7,628	2,290	1,099	2,740	1,499	5,558,900
8年	7,124	2,233	1,039	2,550	1,302	5,071,650
9年	7,002	2,074	1,061	2,408	1,459	5,287,300
10年	6,527	1,941	959	2,354	1,273	4,671,240
11年	6,174	1,876	879	2,093	1,326	4,005,890
12年	5,674	1,682	886	1,780	1,326	3,058,210
13年	5,370	1,481	895	1,672	1,322	2,864,670
14年	5,346	1,427	903	1,717	1,299	2,732,120
15年	5,200	1,323	926	1,671	1,280	2,529,140
16年	4,957	1,320	911	1,528	1,198	2,265,820
17年	4,776	1,211	893	1,476	1,196	2,147,660
18年	4,698	1,160	846	1,460	1,232	2,077,340

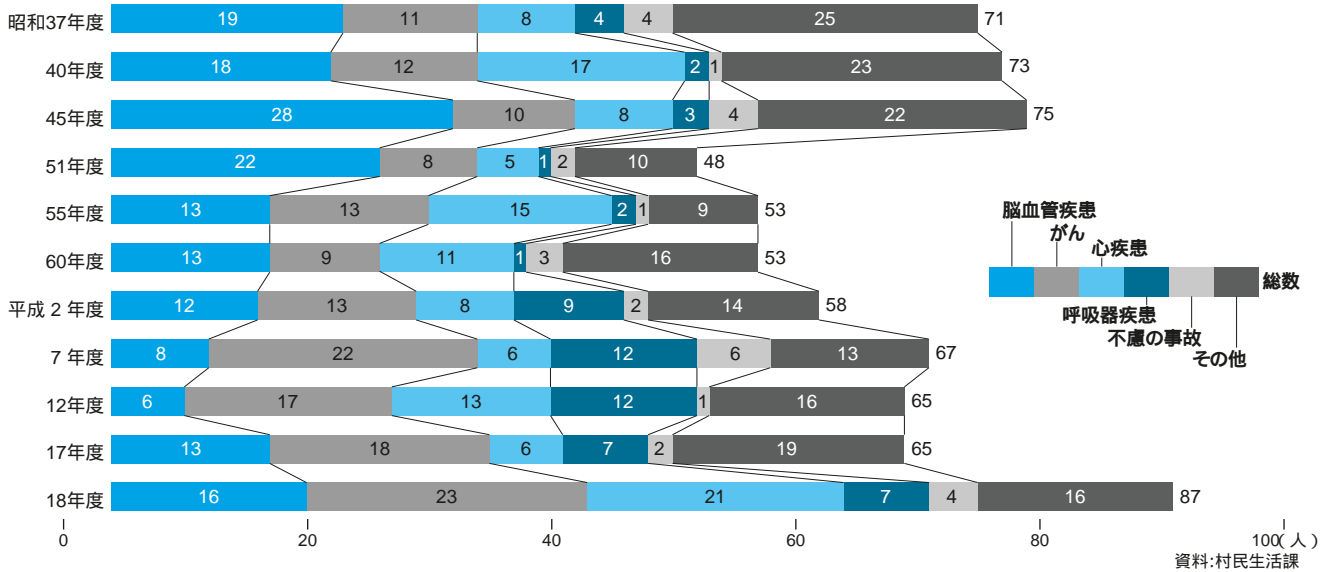
資料:産業振興課

保健・福祉

高齢者人口の推移



死因別死亡者数の推移



国民健康保険の状況

(平成19年3月31日現在)

被保険者		保険税		保険給付額(千円)						
世帯(戸)	人数(人)	調定額(千円)	一人当たり(円)	総額	療養給付費	療養費	出産育児一時金	葬祭費	高額療養費	その他
1,350	2,951	230,205	78,009	434,070	391,519	4,139	1,900	2,200	32,396	1,916

資料:村民生活課

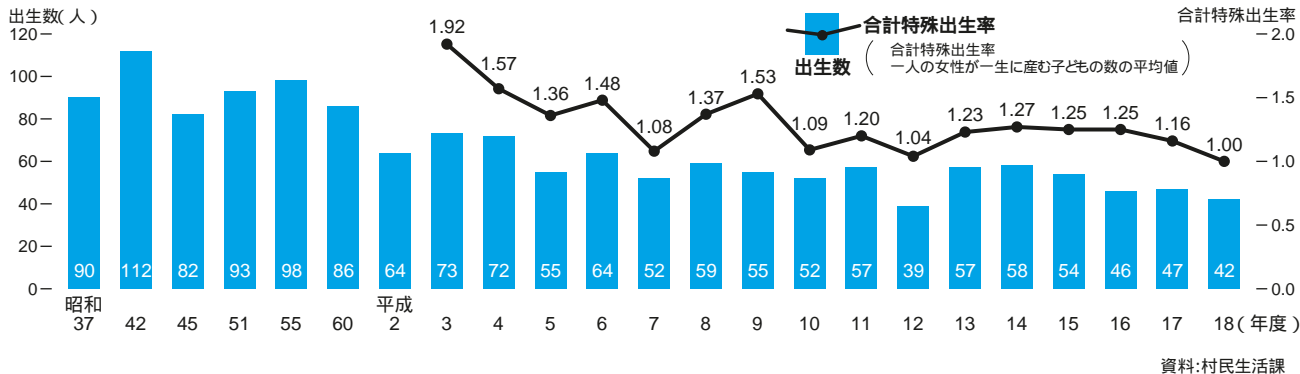
国民年金被保険者数と受給者の状況

(平成19年3月31日現在)

総数	被保険者数			収納率(%)	新法					旧法		福祉	
	1号	任意	3号		老齢	障害	障害(福祉)	遺族	寡婦	老齢	障害	老齢	障害
1,727	1,198	8	521	85.1	1,362	12	54	20	1	293	12	1	0

資料:村民生活課

出生数の推移



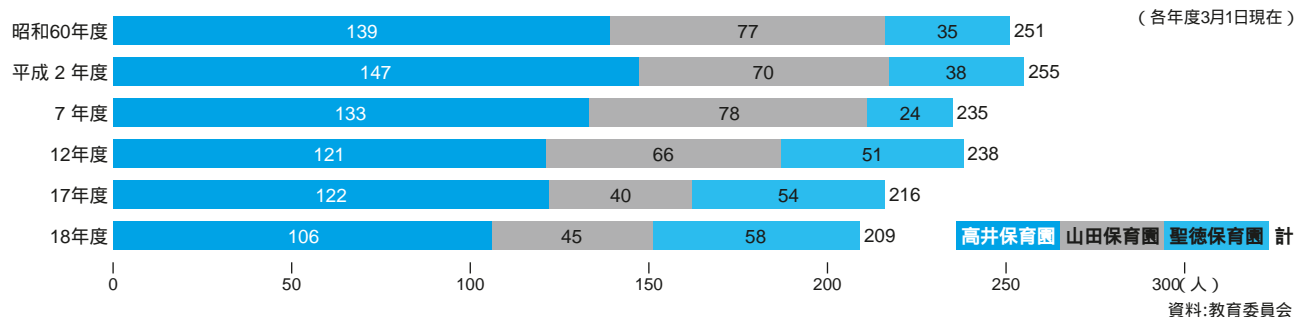
保育園の現況

(平成19年4月1日現在)

施設名	定員(人)	園児数(人)				学級数	開設年月日	
		総数	3歳未満児	3歳児	4歳児			5歳児
高井保育園	150	104		29	31	44	5	昭和47年4月1日
山田保育園	45	49		16	20	13	2	昭和40年4月1日
聖徳保育園	60	52	19	11	10	12	6	昭和36年4月1日

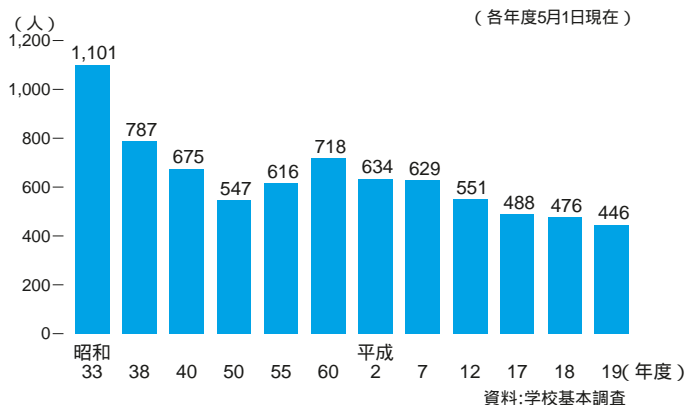
資料:教育委員会

保育園児数の推移

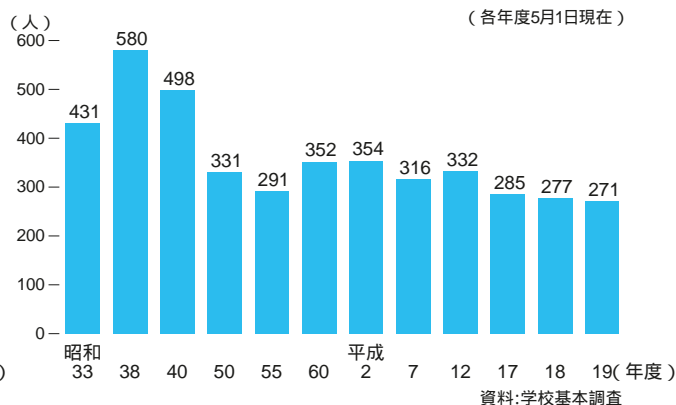


教育

小学校児童数の推移



中学校生徒数の推移



文化

文化団体(高山村文化協会)の概要

(平成19年4月1日現在)

団体名	構成人員
高山書道会	50
高山村華道会	47
高山史談会	103
高山俳壇	30
高山村ヒムロ会	11
高山村囲碁クラブ	64
高山村謡曲会	65
高山合同舞踊会	33
高山村むつみ俳画クラブ	12

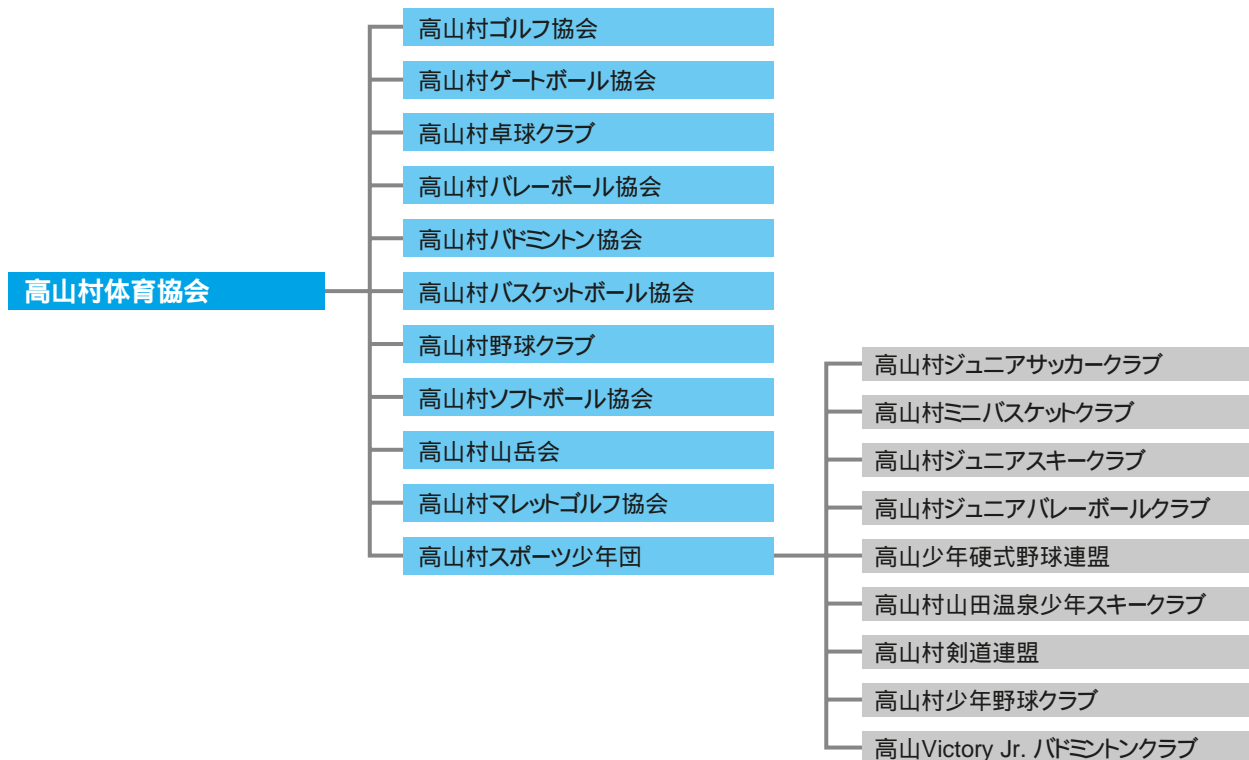
団体名	構成人員
高山村陶芸クラブ	13
コールフラウエン	23
高山村尺八の会	6
高山村おもと同好会	19
高山村ダンススポーツ協会	30
高山絵画クラブ	11
高山茶道会	23
ブルメリア高山	10
フレデリック読み語りの会	8

資料:教育委員会



村制施行五十周年記念 第19回高山村文化祭(平成18年11月3・4日)

スポーツ団体の概要



資料:教育委員会

高山村の文化財

史跡および有形文化財

一茶句碑(今年米～・天神原)	(村指定)
一茶句碑(梅が香よ～・山田温泉)	(村指定)
旧千堀天満宮の俳額	(村指定)
高井小学校出土の旧石器時代の石器	(村指定)
明德寺の石幢	(村指定)
海福寺の聖観世音菩薩立像	(村指定)
西光寺の地藏菩薩半跏趺坐像	(村指定)
浄教寺十六羅漢の欄間	(村指定)
山田大杉神社・社殿	(村指定)
高杜神社本殿および本社	(村指定)
一茶ゆかりの里離れ家	(村指定)
子安神社本殿および本社	(村指定)
駒場の郷蔵	(村指定)
諏訪神社(春宮)本殿	(村指定)
諏訪神社(秋宮)本殿および本社	(村指定)
温泉の薬師堂	(村指定)
湯倉洞窟遺跡	(村指定)
福島正則屋敷跡	(県史跡)
堀之内高札場	
赤和観音堂	
一茶遺墨	
月生城址	
藤沢焼窯跡	
福井城址	
滝ノ入城址	
榎形城跡	
関山国師誕生の地	
山田氏居館址	
平塩の徳正寺跡	
安田主水翁遺徳碑	
山田温泉付近の句碑、歌碑	

無形文化財

- 牧の獅子狂言
- 天神原の獅子狂言



旧千堀天満宮の俳額

名勝および天然記念物

雷滝	(村指定)
水中の枝垂れ桜	(村指定)
黒部のエドヒガン桜	(村指定)
坪井の枝垂れ桜	(村指定)
鞍掛山産出のハダカイワシ属の化石	(村指定)
岩鼻の柱状節理	
中塩の湧き井戸	
温泉の焼け	
高杜神社杉並木	
赤和観音の大杉	
赤和観音のしだれ桜	
稲沢の大イチョウ	
牧場のシナノ木	
ハイマツ林	
ガンコウラン	
カモシカ	
ヒメギフチョウ	
トワダカワゲラ	
カオジロトンボ	
イワナ	

資料:教育委員会



鞍掛山産出のハダカイワシ属の化石



高井小学校出土の旧石器時代の石器



明德寺の石幢



海福寺の聖観世音菩薩立像



西光寺の地藏菩薩半跏趺坐像

生活基盤

村内道路状況

(平成19年4月1日現在) 単位:m

	路線数	総延長	改良延長	改良率	舗装延長	舗装率
県道	6	62,200	40,144	64.5%	57,700	92.8%
村道	812	303,670	140,712	46.3%	154,842	51.0%
一級	13	16,784	16,465	98.1%	16,733	99.7%
二級	32	25,193	20,326	80.7%	21,535	85.5%
その他	767	261,693	103,922	39.7%	116,574	44.5%
計	1,630	669,540	321,569	48.0%	367,383	54.9%
農道	3	1,270	5	0.38%	0	—
林道	15	55,393	55,393	100.0%	14,497	26.2%

資料:建設水道課

上水道施設の状況

(平成19年3月31日現在)

水道名	認可年月日	給水区域	給水人口(人)	供給量
高山村上水道	平成12年3月29日	大字高井の一部 大字牧の一部	5,714	1,483m ³ /日 541,139m ³ /年
山田簡易水道	昭和29年6月21日	大字中山、大字奥山田 (字山田入の一部を除く)	2,178	908m ³ /日 331,327m ³ /年
福井原簡易給水施設	昭和38年5月1日	大字牧字福井原・字上福井	36	8m ³ /日 2,758m ³ /年
山田牧場簡易給水施設	昭和38年9月1日	大字奥山田字山田入の一部	28	66m ³ /日 24,224m ³ /年
七味飲料水供給施設	昭和48年11月1日	大字奥山田字山田入の一部 大字牧字奥日影	1	8m ³ /日 3,025m ³ /年

資料:建設水道課

下水道普及状況

(各年度3月31日現在)

	対象人口(人)	使用者人口(人)	普及率
平成2年度	1,325	940	70.9%
7年度	4,928	2,596	52.7%
12年度	8,004	6,067	75.8%
17年度	7,866	6,763	86.0%
18年度	7,857	6,765	86.1%

資料:建設水道課



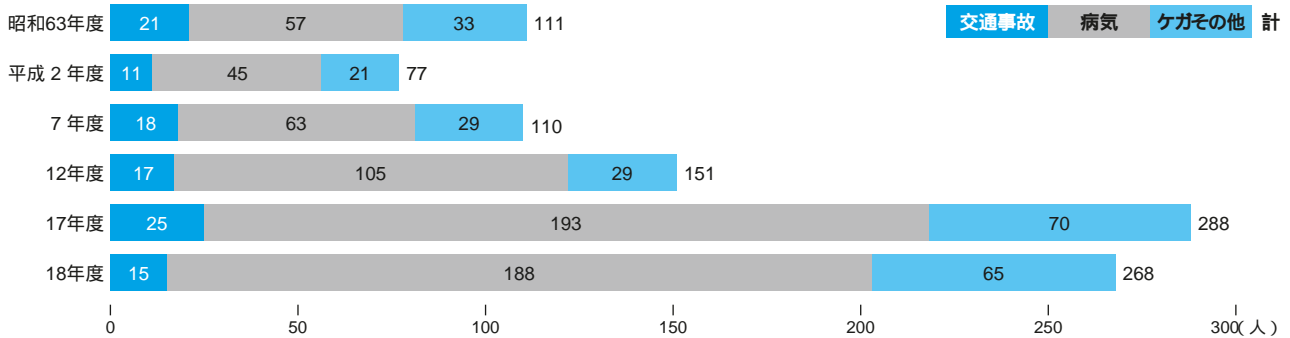
消防・交通安全

火災の発生状況の推移

年度	火災件数		被災世帯数	焼失棟数	焼失面積(単位:m ²)		損害見積(単位:千円)		傷害(人)	死者(人)
	一般	林野			一般	林野	一般	林野		
昭和60年度	3		3	3	154		1,013		不明	不明
平成2年度	3		2	3	274.1		5,206		1	1
7年度	5	3	5	7	75,063	500	23,548	42	0	0
12年度	1		1	2	212		8,398		0	0
17年度	4		3	3	476.7		5,421		1	0
18年度	1	1	1	2	324	19	33,349	21	1	0

資料：総務課

救急車出動状況の推移



資料：総務課

交通事故発生状況の推移

年度	件数	死者(人)	負傷者(人)
昭和63年	14		22
平成2年	16		16
7年	23	1	28
12年	16		20
17年	22		31
18年	14		19

資料：総務課



財政

一般会計 決算状況の推移

歳入

(単位:千円、%)

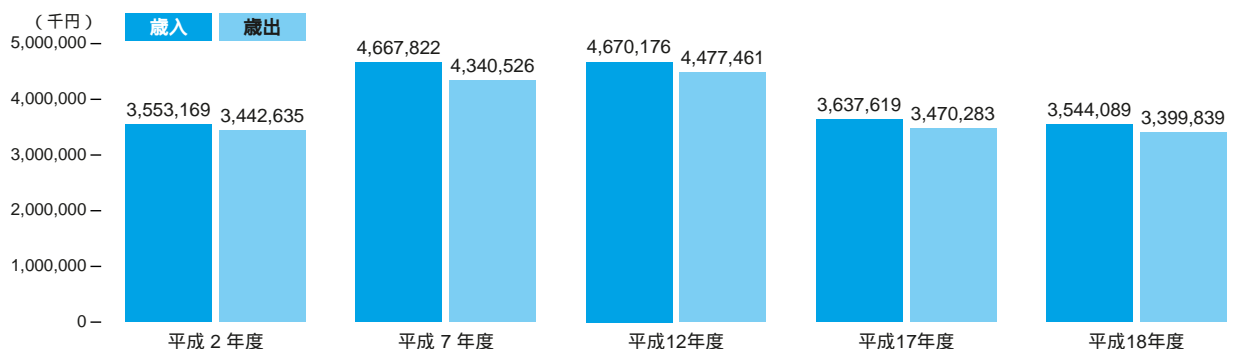
	平成2年度		平成7年度		平成12年度		平成17年度		平成18年度		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
自主財源	市町村税	512,763	14.4	697,077	14.9	670,617	14.4	606,740	16.7	608,972	17.2
	分担金・負担金	125,077	3.5	16,148	0.3	30,549	0.7	39,440	1.1	41,554	1.2
	使用料・手数料	106,714	3.0	145,152	3.1	131,769	2.8	110,216	3.0	102,845	2.9
	その他	615,519	17.4	774,960	16.7	520,010	11.1	444,476	12.2	381,905	10.7
	小計	1,360,073	38.3	1,633,337	35.0	1,352,945	29.0	1,200,872	33.0	1,135,276	32.0
依存財源	地方交付税	1,493,109	42.0	1,968,422	42.2	2,215,210	47.4	1,684,163	46.3	1,690,649	47.8
	国庫支出金	71,456	2.0	109,658	2.3	122,975	2.6	129,704	3.6	118,445	3.3
	県支出金	269,414	7.6	348,985	7.5	280,964	6.0	139,832	3.8	125,561	3.5
	地方債	226,600	6.4	456,800	9.8	467,500	10.0	264,700	7.3	243,500	6.9
	地方特例交付金 地方譲与税等	132,517	3.7	150,620	3.2	230,582	5.0	218,348	6.0	230,658	6.5
	小計	2,193,096	61.7	3,034,485	65.0	3,317,231	71.0	2,436,747	67.0	2,408,813	68.0
歳入合計	3,553,169	100.0	4,667,822	100.0	4,670,176	100.0	3,637,619	100.0	3,544,089	100.0	

歳出

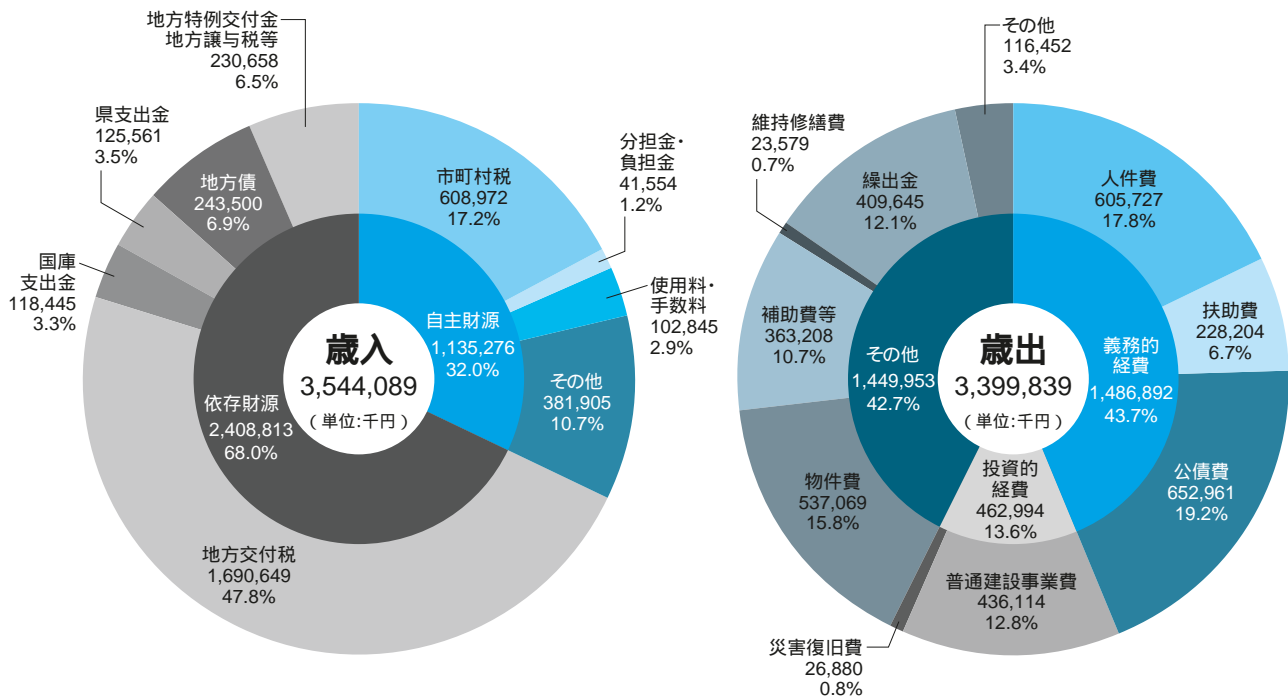
(単位:千円、%)

	平成2年度		平成7年度		平成12年度		平成17年度		平成18年度		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
義務的経費	人件費	467,485	13.6	610,218	14.0	688,376	15.4	647,655	18.7	605,727	17.8
	扶助費	57,616	1.7	95,560	2.2	134,823	3.0	225,581	6.5	228,204	6.7
	公債費	303,350	8.8	485,131	11.2	715,603	16.0	571,047	16.5	652,961	19.2
	小計	828,451	24.1	1,190,909	27.4	1,538,802	34.4	1,444,283	41.7	1,486,892	43.7
投資的経費	普通建設事業費	1,371,000	39.8	1,757,696	40.5	1,203,643	26.9	302,302	8.7	436,114	12.8
	災害復旧費	32,958	1.0	3,010	0.1	0	0.0	32,276	0.9	26,880	0.8
	小計	1,403,958	40.8	1,760,706	40.6	1,203,643	26.9	334,578	9.6	462,994	13.6
その他	物件費	347,458	10.1	571,049	13.2	540,720	12.1	567,624	16.4	537,069	15.8
	補助費等	192,692	5.6	261,555	6.0	358,829	8.0	361,655	10.4	363,208	10.7
	維持修繕費	24,435	0.7	41,602	1.0	44,131	0.9	43,337	1.2	23,579	0.7
	繰出金	94,490	2.7	312,510	7.2	302,415	6.8	428,479	12.3	409,645	12.1
	その他	551,151	16.0	202,195	4.6	488,921	10.9	290,327	8.4	116,452	3.4
小計	1,210,226	35.1	1,388,911	32.0	1,735,016	38.7	1,691,422	48.7	1,449,953	42.7	
歳出合計	3,442,635	100.0	4,340,526	100.0	4,477,461	100.0	3,470,283	100.0	3,399,839	100.0	

資料:総務課



平成18年度一般会計 歳入・歳出決算構成比



特別会計 決算状況の推移

(単位:千円)

会 計	平成2年度		平成7年度		平成12年度		平成17年度		平成18年度	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
国民健康保険	303,836	273,136	330,556	306,384	405,658	402,656	637,649	624,133	670,353	645,239
診療所	128,169	126,079	130,761	122,439	105,523	104,193	138,037	127,363	137,195	124,132
老人保健	365,251	364,916	469,269	469,263	633,358	633,354	659,307	659,303	617,132	617,131
介護保険					227,345	217,142	399,407	398,649	448,837	444,346
水道事業	210,553	172,200	338,291	311,939	168,565	157,317	89,574	83,365	73,794	61,088
住宅新築資金等貸付事業	38,609	37,174	54,110	52,158	18,621	18,299				
温泉開発事業	42,519	41,056	130,411	128,996	36,545	30,603	40,028	36,632	36,649	32,389
農業集落排水事業	278,299	275,476	860,950	858,250	247,480	246,814				
下水道			773,895	744,317	618,885	617,068	377,324	352,381	371,804	351,351

企業会計 決算状況の推移

(単位:千円)

会 計		平成2年度		平成7年度		平成12年度		平成17年度		平成18年度	
		収入	支出	収入	支出	収入	支出	収入	支出	収入	支出
上水道事業	収益的収支					99,836	95,624	96,603	92,806	94,904	81,747
	資本的収支					11,088	31,180	15,333	34,660	15,683	34,104

村を築いた人々

村長

代	氏名	任期
初代	黒岩 義惟	昭和31年11月15日～昭和39年11月14日
第2代	黒岩 一實	昭和39年11月15日～昭和51年11月14日
第3代	久保田 常吉	昭和51年11月15日～昭和63年11月14日
第4代	小出 清	昭和63年11月15日～平成8年11月14日
第5代	黒岩 静男	平成8年11月15日～平成16年11月14日
第6代	久保田勝士	平成16年11月15日～

助役

代	氏名	任期
初代	久保田孝治	昭和32年1月29日～昭和36年1月28日
第2代	西原 保夫	昭和37年1月11日～昭和52年3月31日
第3代	黒岩 静男	昭和52年4月1日～昭和62年3月31日
第4代	涌井 勝治	昭和62年4月1日～平成2年3月31日
第5代	山崎三代吉	平成2年4月1日～平成6年3月31日
第6代	黒岩 章吉	平成6年4月1日～平成10年3月31日
第7代	塚原 圭吾	平成10年10月1日～平成17年3月31日
第8代	黒岩 俊秀	平成17年4月1日～平成19年3月31日

副村長

代	氏名	任期
初代	黒岩 俊秀	平成19年4月1日～

収入役

代	氏名	任期
初代	井浦 軍四郎	昭和32年9月17日～昭和48年9月1日
第2代	小出 清	昭和48年9月2日～昭和52年3月31日
第3代	篠原 敏郎	昭和52年4月1日～昭和60年3月31日
第4代	関 舜二	平成5年6月1日～平成9年5月31日
第5代	久保田亀三郎	平成9年6月1日～平成13年5月31日
第6代	小林 忠男	平成13年6月1日～平成17年5月31日

議長

代	氏名	任期
初代	黒岩 一實	昭和31年10月23日～昭和39年10月31日
第2代	宮前 信男	昭和39年12月4日～昭和40年9月29日
第3代	久保田 常吉	昭和40年10月4日～昭和47年9月28日
第4代	松本 應祐	昭和47年9月28日～昭和48年9月29日
第5代	湯本 二男	昭和48年10月2日～昭和52年9月29日
第6代	黒岩 博	昭和52年10月4日～昭和54年9月20日
第7代	福本 泰人	昭和54年9月20日～昭和60年9月29日
第8代	山崎三代吉	昭和60年10月4日～平成元年9月29日
第9代	涌井 亀巳夫	平成元年10月4日～平成4年10月5日
第10代	小林 正信	平成4年10月5日～平成5年9月29日
第11代	西原 忠雄	平成5年10月4日～平成7年10月4日
第12代	小林 喜生	平成7年10月4日～平成9年9月29日
第13代	松本 竹夫	平成9年10月3日～平成11年10月5日
第14代	返町 睦雄	平成11年10月5日～平成13年9月29日
第15代	山崎 修邦	平成13年10月3日～平成15年10月3日
第16代	藤沢 勝義	平成15年10月3日～平成17年9月29日
第17代	毛利 鹿峰	平成17年10月3日～平成19年10月3日
第18代	篠原 誠	平成19年10月3日～

副議長

代	氏名	任期
初代	湯本 安久	昭和31年10月23日～昭和32年9月29日
第2代	松本 勇次郎	昭和32年10月9日～昭和36年9月29日
第3代	片桐 喜一	昭和36年10月2日～昭和40年9月29日
第4代	山崎 喜一	昭和40年10月4日～昭和44年9月29日
第5代	松本 應祐	昭和44年9月30日～昭和47年9月28日
第6代	藤沢 芳藏	昭和47年9月28日～昭和48年9月29日
第7代	宮島 博	昭和48年10月2日～昭和52年9月29日
第8代	福本 泰人	昭和52年10月4日～昭和54年9月20日
第9代	平林 春太郎	昭和54年9月20日～昭和56年9月29日
第10代	松本 一衛	昭和56年10月2日～昭和60年9月29日
第11代	勝山 袈裟吉	昭和60年10月4日～平成元年9月29日
第12代	小林 正信	平成元年10月4日～平成4年10月5日
第13代	久保田 富夫	平成4年10月5日～平成5年9月29日
第14代	西原 弘	平成5年10月4日～平成7年9月30日
第15代	新井 秀一	平成7年10月4日～平成9年9月29日
第16代	太田 照夫	平成9年10月3日～平成11年10月5日
第17代	藤沢 勝義	平成11年10月5日～平成13年9月29日
第18代	牧 秀夫	平成13年10月3日～平成15年10月3日
第19代	山崎 好明	平成15年10月3日～平成16年1月23日
第20代	涌井 富生	平成16年1月23日～平成17年9月29日
第21代	篠原 誠	平成17年10月3日～平成19年10月3日
第22代	黒岩 喜一郎	平成19年10月3日～

高山村議会議員

**昭和31年
9月~**
中村通信
太田三郎
黒岩恒雄
樽澤信雄
福本文吉
藤澤 篁
小出傳六
松本小市
鈴木茂治
松本嘉六
松本亀太郎
藤澤清志
黒岩一實
黒岩鶴榮
黒岩鶴三
牧 善七
小林上一郎
涌井一二
片桐一雄
西原瀧井
返町弥曾吉
山田貞一郎
湯本安久
平林喜誓
片桐喜一
松本勇次郎
藤沢武雄
望月伊作
宮川一一
宮川與康
藤沢宇太郎
藤沢 正

**昭和32年
9月~**
黒岩一實
松本勇次郎
中村巳作
太田三郎
小山政治
勝山程治
勝山光國
藤澤 篁

山 岸 三
鈴木茂治
松本信雄
藤澤清志
黒岩光雄
山崎要七
中沢啓吉
片桐一雄
西原瀧井
返町弥曾吉
山田貞一郎
望月伊作
宮川與康
藤沢 正

**昭和35年
11月~**
勝山一男
平林久司

**昭和36年
9月~**
勝山袈裟吉
小山直吉
勝山一男
宮前信男
藤澤安雄
戸田 勇
宮島一嘉
松本信雄
藤澤雅三
松本竹治
黒岩一實
黒岩光雄
山崎要七
水橋主一郎
宮崎 實
平林久司
片桐喜一
藤沢嘉裕
宮川 茂
湯本市太郎

**昭和40年
9月~**
勝山袈裟吉
内山静雄

木 正 三
西澤 實
小出亀之助
小出 清
久保田五助
松本一衛
松本竹治
黒岩静男
黒岩 博
山 寄 喜 一
涌井住夫
水橋養平
片桐真七
久保田常吉
藤沢芳藏
藤沢嘉裕
宮川 茂
湯本市太郎

**昭和44年
9月~**
井浦雄太郎
梨本義雄
小山義雄
樽澤重右衛門
篠原敏郎
松本應祐
山 寄 克 己
松本一衛
松本竹治
黒岩悦夫
山 寄 三 郎
山 寄 政 之 助
涌井亀巳夫
片桐真七
久保田常吉
山崎敏行
藤沢一實
藤沢芳藏
望月昭一郎
関谷誠一

**昭和48年
9月~**
畔上年治
梨本義雄

内 山 重 雄
勝山裕夫
福本泰人
松本應祐
宮島 博
久保田城雄
加藤房雄
湯本直嗣
黒岩 博
山 寄 三 郎
山崎保雄
宮崎 茂
湯本二男
平林春太郎
山崎敏行
片桐英一郎
藤沢一實
宮川幸治

**昭和52年
9月~**
高村庄五郎
小 淵 久 夫
福本泰人
和田正明
小出榮一
小出定男
関谷忠男
八 町 忠
藤澤 正
黒岩太郎
黒岩 博
山崎保雄
善哉茂雄
澁谷龍治
臼田正次
平林春太郎
片桐英一郎
藤沢一實
臼田義一
関谷忠好

**昭和56年
9月~**
勝山袈裟吉
古川万吉

小 山 辰 雄
勝山一男
福本泰人
東方久雄
牧 修 一
西原忠雄
八 町 忠
松本一衛
山 寄 正 太 郎
山 寄 三 代 吉
山 寄 秀 治
善哉茂雄
上野高治
関谷重久
山崎袈裟吉
松本竹夫
藤沢利雄
宮川正一

**昭和59年
10月~**
小出榮一

**昭和60年
9月~**
勝山袈裟吉
梨本義雄
宮前禮太郎
井浦重喜
山口森雄
久保田富夫
八 町 忠
松本喜平
山 寄 正 太 郎
山 寄 三 代 吉
山 寄 秀 治
水橋才一郎
渋谷久太郎
毛利 當
藤沢利雄
湯本 宏

**平成元年
9月~**
小林正信
新井秀一
宮前禮太郎

裕 本 勲
山崎 茂
久保田富夫
八 町 忠
黒岩 元
黒岩利男
滝澤善一
山 寄 秀 治
涌井亀巳夫
西原 弘
毛利 當
荒井孝二郎
宮川新三

**平成5年
9月~**
内山晴惠
新井秀一
勝山興七
持田武信
松本幸雄
西原忠雄
八 町 忠
小林喜生
黒岩清三郎
滝澤善一
山 寄 秀 治
片桐 浩
西原 弘
返町睦雄
松本竹夫
関谷宣男

**平成8年
10月~**
黒岩清男
黒岩利男

**平成9年
9月~**
小山邦雄
勝山興七
勝山茂美
山崎好明
太田照夫
八 町 忠
宮川貞子

小 林 喜 生
黒岩清男
須加尾郁夫
藤沢勝義
山 寄 秀 治
涌井富生
返町睦雄
山崎修邦
松本竹夫

**平成13年
9月~**
小山武男
勝山興七
和田隆広
篠原 誠
山崎好明
小林利治
水谷 清
宮川貞子
須加尾郁夫
藤沢勝義
牧 秀 夫
山 寄 秀 治
涌井富生
宮崎 茂
毛利鹿峰
山崎修邦

**平成17年
9月~**
梨本修造
小山吉正
篠原 誠
黒岩喜一郎
水谷 清
畔上孝一
松本 茂
藤沢勝義
山 寄 秀 治
竹内勝男
堀江繁太郎
毛利鹿峰

(行政区順)

高山村民憲章

私たちは、高山村民であることに誇りと責任をもち、明るく豊かな住みよい村を築くため、村民の守るべき規範として、ここに憲章を定めます。

- 一、自然を生かした、美しい村にします
- 一、健康で働き、豊かな村にします
- 一、互いに助け合い、明るく村にします
- 一、家庭と郷土を愛し、平和な村にします
- 一、教養と文化を高め、誇りある村にします

昭和五十五年十月一日制定

高山村

高山村村歌

林 唯雄 作詞
大日方千秋 補作詞
月岡 弘一 作曲

明るく、希望にみちて
Tempo di Marcia

ちくまのながーねア
せおとなえなく たついらか たつきのいぶーき た
ループスをほるかにのぞーむこ
くーましく

はざれよく、ほすんで
のーだいち わかほもえ たつまつーかわの

三
光輝く 栄ゆる明日に
励む生業 物みな実り
広がる丘の 黄金波
熱れる里 ひとすじに
ふるさとの 睡み合ひ

二
緑をわたる 白樺そよぐ
湯の香ただよ 重き歴史を
挙りて立てよ 胸に秘め
肩あげよ

一
千曲の流れ 遙かに望む
若葉萌えつつ 瀬音絶えなく
生活の息吹き たくましく

アルプスを この大地、
松川の 立つ姿

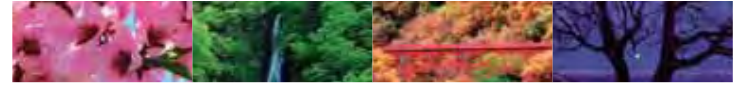
風さやか 高原や
高山の 胸に秘め
高山の 眉あげよ

高山村村歌

林 唯雄 作詞
大日方千秋 補作詞
月岡 弘一 作曲

(昭和五十五年十月制定)
(平成十八年十一月改訂)

信州高山 感動めぐりマップ



役場周辺より望む北アルプス

